愛國婦人

愛國婦人會機關

愛國婦人會の目的は遺族及癈兵を救護するにあり

每月五日二十日發行

一部金參錢　一ケ月金六錢　半年分金參拾六錢　全國無遞送料
廣告料一行六拾錢
本號全部禁轉載
發行所　東京麹町區（牛ケ淵公園）愛國婦人會發行所
發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　手島益雄

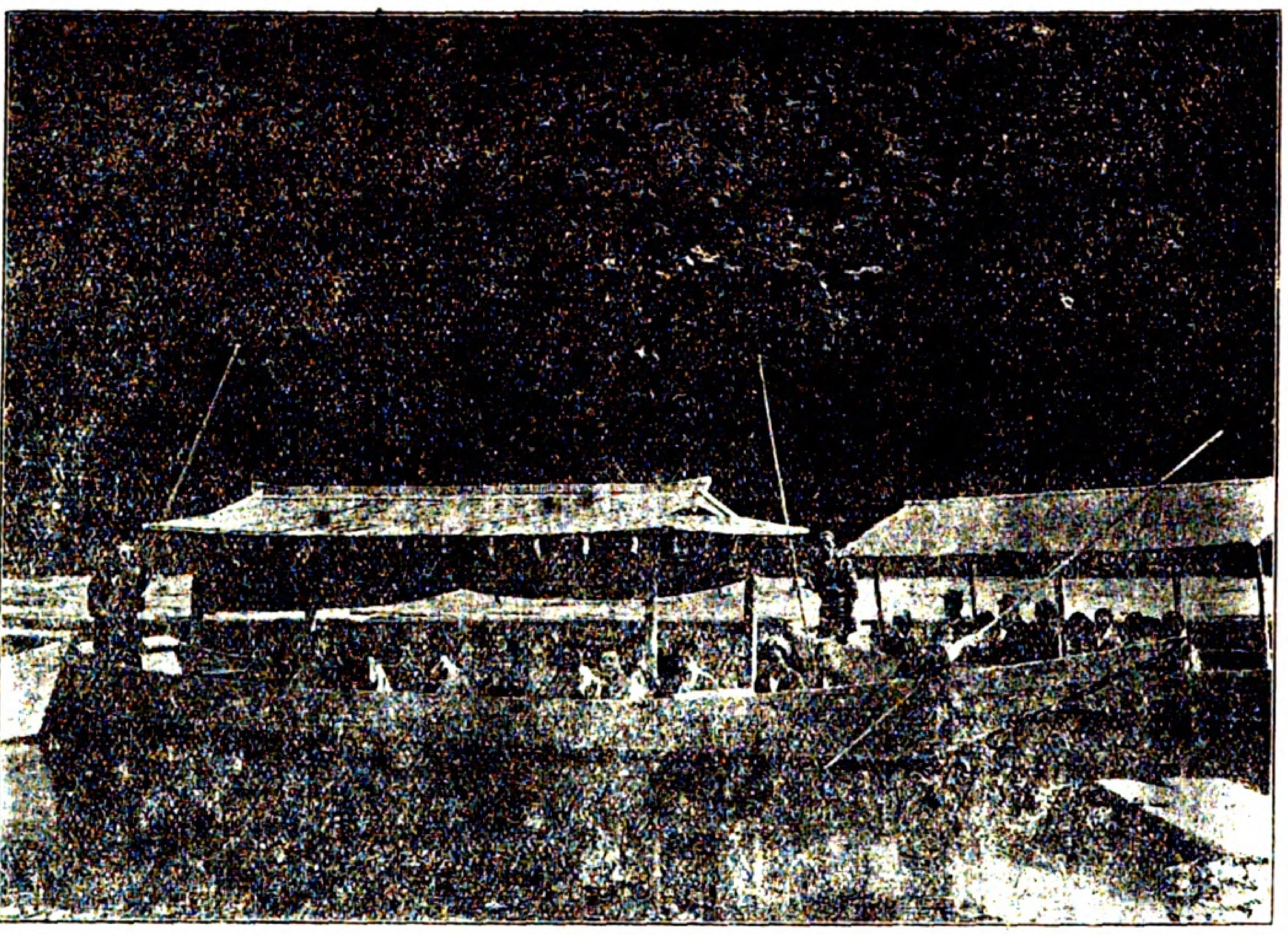
社說

本會の擴張

軍人の遺族及び癈兵救護の事業に、戰爭中よりも、戰後に於て益其必要を見るものなることは、我等の屢々論じたる所にして、今更言ふまでもなけれど、殊に明治三十七八年戰役の如き十萬に近き戰病死者と癈兵とを出したるに對して、其遺族及び癈兵は如何に爲すべきかは、實に、國家の一大問題なりとす。固より政府に於ても夫々の恩典ありて、孰れも其惠に浴し、他の救護を要せざる者もあるべけれど、政府は費途の多端なると、事情に依て斟酌すること能はざるとに由りて到底之を救護し盡して遺憾なしといふこと能はず、即ち本會の起れる所以にして、且起りたる以上は成るべく前記救護の目的を達するに努めざるべからず。本會が一昨年來の活動は誠に目醒ましきものにして、其功績は朝野內外の等しく認めて嘆賞する所なり、然れども本會は其事に當るに及んで、救護を要すべきものは、益々多く、その行ふべき事は愈々繁くして、到底今日の資力を以てしては、充分の事功を擧ぐるに難きことを、實際に知覺し來れり、於是本月十一日を以て、本會々長岩倉侯爵夫人には、書を各地方支部に致して、其大に本會の擴張に努力せられんことを以てせらる、書は載せて本紙第五頁に在り、書中「本會會員たるもの彼を懷ひ是を念ひ、一層奮勵努力以て大に本會主旨の貫徹を勉めざるべからず、今や本會會員を百万人以上に增加し、以て此事に當るとせば、庶幾くは、我救護事業の實を擧ぐることを得ん乎」との言あり是れある哉、我等は會の役員及び會員が大に奮勵努力して一日も早く此言を事實にせられんことを切望して止まざるものなり。

赤十字社總會

日本赤十字社は本月十二日を以て、其戰後臨時總會並十四回總會を、首府上野公園博物館構內に於て催したり、當日畏くも同社主高保護者に渡らせらるゝ皇后陛下には行啓あらせられ、且優渥なる令旨を賜はる、同社及び社員の光榮何物か之に若かん、此日全國百十六萬の社員を代表して參會せる者四萬餘人亦盛なりといふべし、日本赤十字社が過ぐる戰役中敵味方の差別なく、一視同仁の文句を事實に現はして、能く數十萬の傷病軍人の救護に從事して遺憾なからしめたるの偉功は、內外の等しく認識嘆賞する所にして、戰勝の光榮と相並んで、我が國民の、博愛人道の精神を世界に發揮したるものといふべし。而して其救護の職に優れたる者百有一名、これ軍人の戰死に劣らざるの名譽にして、其內三十二名の婦人を算するとは、實に我國婦人全體の誇りなりといふべし。赤十字社は戰爭中傷病軍人の救護を目的とするもの、故に戰爭濟み、軍人の傷創、疾病の治癒せる曉には、其本務は終れるものと雖も尚且「戰後の發展に伴ひ、益々事業を擴張し、資力を充實し、以て他日の報効を期せん」とす。愛國婦人會は如何、愛國婦人會は、赤十字社の事業の引續きとして、軍人の遺族及び癈兵の救護に任ずるもの、即ち彼れは、戰時現前の急を救ひ、是れは其善後の策を講じ且實行するもの、兩者は脣齒輔車の關係ありて、其一を缺く可らざるものなり。唯愛國婦人會の任務は善後にあり、乃ち軍人遺族及び癈兵の存する限りは、戰時と戰後の區別なく、又赤十字社の如く、總會を以て救護事業の完結を告ぐる能はず、常に、何時までも、救護に盡力せざるべからざるものなり、是れ今日に於て益其任務の重きを加ふる所以、隨て今回の大活動ある所以なり、我等は遠からぬ將來に於て、「百萬以上」の會員が、本會に名を列して、遺憾なく、救護の目的が達せらるゝことを信じて疑はざるなり。



京都嵐峡に於ける岩倉會長一行

予の女子教育觀

（大隈伯及尾崎市長の女子教育論に對して）

本會相談役　男爵　松平正直

大隈伯と尾崎市長とが女子教育に就て互に相反したる意見を陳べた、余も其席に在つて一場の演說を試みたのであるが、之に對し今兩氏の意見を批評し、最後に余の意見を陳べて見やうと思ふ。尾崎市長は女子は社會の難物であつて、女子問題は東西古今を通じて未だ解決の出來ない問題で、孔子は女子と小人は養ひ難しと歎じ、釋迦は女子は到底濟度し難しと慨し、ソロモンの如き女子遂に不可解と論ぜりとて、女子問題は到底難解のものであると結んだ、大隈伯は之に反對で、男子は從來女子を壓迫したるものにて、若し女子をして男子を許せしめば、男子と猛獸とは養ひ難しと云ふならんと反駁し、更に語を進めて女子の教育程度を高尙にし、男子と同等ならしめ、男子同樣の教育を受けしむるの必要ありと論じたのであるが、余は尾崎兩氏の說何れにも贊成が出來ない、尾崎氏は女子問題不可解と云ふが、この論法以てすれば社會の事何事にても不可解である、獨り女子問題なるのみならず天地萬物森羅萬象悉く不可解と云はねばならぬ、併し余は社會のことを斯の如く考へず、何事でも解せらるゝ者と信じて居る、將來の事は解せられぬが、現在に於ては解して居るのであつて、孔子の自然說に同意を表せねばならぬ、又大隈伯は女子教育をして男子と同等ならしめんことを希望さらるゝやうであるが、斯の如きは女子の身體の構成分子から變更を加へて來なくては、到底行はれざるの議論であらうと思ふのである。

世に東洋には女子教育なるものが無いと云ふ者があるやうであるが、決して左樣で無い、我國王朝時代の歷史は如何であるか、名媛才女輩出して、男子も及ばぬ程の勢力を有て居つた、教育無くして焉んぞ斯の如く女性の全盛時代を見る事が出來やうか、降つて武門政治に移つてからも、殊に德川幕府三百年間は女子を壓迫し、女子をして教育を受けしめぬ事に定めた結果、女子の勢力は衰へたが、併しながら云ふに云はれぬ武士的思想は此間にも絕へず涵養されて居り、君に忠なる婦人もあり、夫に貞なる婦人も出て其極日露戰爭には我々男子の且て想像だにした事もない婦人の活動を見た、目に一丁字なき婦人までが國家の爲には必死となり、心を一にして助けたではないか、之に依て見ると物質的教育は少いか知らぬが、精神的教育、言葉を替て云へば日本の國是に適ふたる教育は社會に普及して居ると云はねばならぬ、然るに今日の如く文明國に則る教育が社會の表面に顯はれて、男子と同樣な知識を與へねばならぬとか、米國の如く女子は男子を眼下に見て平然たるが如き有樣に推移つたならば、日本固有の美風は廢たれて了ひ、女らしき女が出來ず、男らしき女が出來、世は甚だ殺風景至極のものとなるであらうと思ふ、故に女子教育は日本固有の美風を捨てず、益々之を發展せしむることを希望して止まぬ次第である。

電話番町五百二十番

◎本號には愛國婦人會京都支部第五回總會光景の寫眞版附錄あり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論叢

現代日本婦人論

伯爵　柳澤保惠

▲主婦の飾り物　現今日本に於ける中流以上の家庭には有名無實の主婦が多いのである、最も社會の組織やら家の格式と云ふやうなことが自然婦人を無能にするのであるが、是れは甚だ面白からぬ現象であると思ふ、元來其の職にあるものが其の任を盡し得ぬとすれば、それは即ち飾物である、何んか公共團體等の事業には時に飾り物の必要があるであらうが、最も活動を要する家庭に於て、若し主婦が無能で飾物である時は、其の家族は決して趣味ある生活をなすことが出來ぬのである、從つて是れより生ずる弊害が社會を亂す原因となつた實例が甚だ多いのである、故に主婦となりたる以上は、是非是れに相當する實力を養はねばならぬことゝ思ふのである。

▲旅行と膽力と　活氣あり膽力ある婦人は勢ひ無能では居れぬやうである、故に婦人に斯る氣風を養はすることが必要であると思ふ、其方法としては種々ありますが、自分は先づ海上旅行が最も有効にして亦た興味の多いことゝ思つて居る、先づ港から出帆すると、數時間にして全く人里を離れ、板一枚が命の境と云ふ場合になるから、婦人でも子供でも自然勇敢の氣が養はれて來る、殊に暴風雨にでも遇ふと同行間の結合心が強くなるから、家族打ち揃ふての旅行は一家の和合の上にもまた効を奏する、元來日本は海國であるにも係はらず、國民一般に航海の念が薄い、是れは婦人に此思想が缺乏して居るからである、現今の如く海を恐るゝ婦人のみが多いやうでは、日本の將來も甚だ心細いことである、故に女子教育の一端として、今少し偉大なる冒險的思想を養はねばならぬと思ふ。

▲活氣と轉婆　とを取り違へては大變に困る、自分は決して出過ぎた突飛な擧動に及ぶ女子を賞讃するのではない、常識を備へた役に立つ、最も女らしい婦人の多からんことを希望するのである、故に服裝の如きも、改良服とか或は筒袖やうのものを、妙齢の婦人が着ると云ふことは餘り好ましからぬ、洋服よりは日本服を上品に着た方が、寧ろ日本婦人には適して居ると思ふのである。

▲貴婦人と流行　衣服の流行は日本では藝妓社會から始まるが、彼等の衣服に對しての考案は誠に巧みである、最も營業柄でもあらうが、兎に角頭が働いて居るのである、然るに貴婦人社會の服裝は未だ充分に發達して居ない、一體貴婦人社會の服裝は貴婦人が意匠を凝らして着用すると云ふことが各國通じての有樣で、歐米では、時の流行は皆貴婦人界より始まつて居るのである、現文部大臣牧野氏が先年公使として佛國に在つた時、同氏の夫人が其洋裝に日本風の意匠を加へられたが、其意匠が甚だ斬新にして且つ最も美妙であつたので、一時佛國の交際社界をして顏色なからしめたことがある、何うか今後は我國多數の貴婦人も、自ら流行を作り出すやうにならんことを希望するのである。

▲活た頭の婦人　要するに自分は日本婦人が今少し活きた頭を有つやうにならんことを望むのである、自ら爲さんと決心さへすれば自然勇氣も能力も出るものである、故に例令ば中流以上――華族社會に於ても、主婦としては家事萬端を自分で支配し、子女の教育も充分自分で出來る、乃ち活眼を有する婦人の出て來らんことを祈るものである。

▲己を研究せよ　是れと同時にまた中流以上の婦人は社交の花であるから、交際術に於ても巧みであらねばならぬ、然るに日本にての園遊會や、宴會等に行つて見ると、婦人は婦人同志、男子は男子同志相集つて少しも話しの調和がとれぬ爲め甚だ寂寞である、斯ンな調子故自然賤業婦を席に上すやうになるのである、兎に角今は婦人の過渡時代であつて、日本婦人は徒らに西洋風を眞似てもならず、また固有の昔風のみでも居られぬと云ふ場合であるから、婦人自ら婦人問題を研究し、活眼を開いて自己の立場を定むることが第一であると思ふ。

専賣特許と婦人

特許局審査官　湯淺藤市郎

日本に於ては男子の智識と女子の智識との間に餘程の懸隔がありまして、女子には科學的並に數學的思想が少く、物の發明などゝ云ふことは殆ど出來ません、是れは女子の爲め甚だ遺憾とする處であります、當局に於て毎年特許を受くるものが數千ありますが、殆どすべてが男子で女子は指を屈する丈しかありません、近頃の新聞に女子の特許權を得た人名が掲げられてありますが、其實は男子が發明したのを女子の名義で特許を受けたのもあり、又男子の得た特許權を金錢上の關係で讓受けたと云ふのもあります、故に實際は尚ほ少數かも知れません、處で日本ては此發明に依つて改良を施す可き場所は多く臺所であつて、日用品は常に婦人の手に依つて扱はれて居るのでありますから、發明は婦人から起らねばならぬことかと思ひます、從來の如く無學なる下女あたりに臺所を一任して居つては、如何程不便なる處があつても、又發明の動機があつても、是れを發明することが出來ません、是れからの主婦則ち文明的空氣で養成を受けたる主婦が、自ら臺所の任にあたるやうになつたならば、自然婦人の發明家も出來ることゝ思ひます、婦人自ら使用す可きもの、又婦人に限つて使用せらる可きものを婦人の力で發明改良することが出來ないで、常に男子に依つて改良せらるゝが如きに至つては、文明國婦人の恥辱であると申さねばなりません、殊に昨年來實施されたる實用新案登錄法の如きは、専賣特許よりはもつと簡易で、深く研究を爲さないでも、從來在り來りの物に對して其の使用の場所を變へても、新案登錄を受けることが出來ます、假令ばボタンを足袋のコハゼに用ゆる如きでも、物を止めるにボタンを用ゆることは從來よりあることゝてあるが、是れを足袋に施すは始めてゞあると云ふ處から、新案として登錄を得ると云ふ風で、實用新案の方は主に婦人向きの物でありますから是れからは、婦人社界から競うて登錄を受けらるゝ人の出られんことを希望致すのであります。

扨て此發明と云ふことは、容易な事業では無く最も効用ある物を發明せんとするには、最も多くの歲月と苦心とを要し、一身を犧牲に供して以て事に當らねばなりません、併し一度事成つて社會に用ひらるゝに至つたらば、世界の人類を稗益するのみならず、其の効果は長く千歲にまで及ぶものでありまして、大政治家の如きは其の代限りでありますが、針一本を發明したものは數千年までも是れを使用し、効益を受くるものから感謝を拂はるゝもので、發明家は最も尊い人、大なる慈善家と申しても宜いのであります。日露戰爭に於て下瀨火藥の効果は東鄕大將の勳功にも敢て劣らぬ程でありまして、斯の如き人に對しては、社會から尊敬もし、又其事業をも助け、成るべく其目的を達せしめることを計らねばならぬ、況や發明者の妻たるものは、夫を助けて社會の批難あると否とに拘らず、夫をして後顧の憂ひなく、一心不亂に其目的の完成を期せしむるやうにせねばなりません、助けるのが妻たるの義務であります、然るに往々發明家の苦心談を見ますと、社會から同情を失ふて居るのみならず、先づ第一に困めらるゝは其妻からであります、何うせ一身を犧牲に供して斯道の爲に盡すのでありますから、貧困に陷る、其時は妻からは馬鹿にされ、親族からは侮蔑せられ、遂には其妻から離緣の申込みを受くるに至ることがあります、妻が夫を助けて事業を完成せしめたと云ふことは餘り聞かぬことであります、斯の如きは婦人の淺薄なる智識を暴露したものであります、畢竟は教育の効果が婦人に及ばぬ爲めと申すの外はありません、日本は昔より貞節を重ずるを以て婦道となして居る國でありますから、斯ることは將來に於ては無からうと思ひますが、自ら發明して名を著すの婦人が出でないまでも、其夫をして發明に全力を注がしめ、夫をして其名をなさしめる婦人の出づることを希望致します。

▲某新聞に於ける本會の記事▼

都下に於て刊行せる某新聞は婦人會の將來と題して、平和克復後本會は如何なる目的を以て存續す可きか、爲す可き事業なくして團體を存續するは地方の情況により益用あると同時に害用の虞なしとせずと論ぜり、然るに本會の目的は最初より明かに標示し居りて一點の疑なく、平和克復後愈々盛ならしめざる可からざるの理由は、別項會長の通告文並に本紙に於て常に論明する處にして、會員は夙に了解せらるゝ處ならん、而て當該紙は政治上の運動を爲すの恐ありと論ぜりと雖も我が會員が今日迄一人として會を利用して政治上の運動を爲したる者あるを聞かず、將來も決して斯る事は生じまじく、一種の杞憂に過ぎざる可し、尙會員中會務の名の下に集合して酒を飲み且つ花を弄する者ありと云に至ては、甚だ以て聞捨ならざる事ながら、元來團結の友は惡友を驅逐するとの諺もあり、鞏固なる團體は決て斯る惡風を作る事なきを斷言するに憚らず、喬木には風強し某紙の記事の如きは中傷の說に過ずと云ふべし。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小説

相思曲

江戸靜川

青葉の緑濃くこんもりと茂きがなかに、空行く白雲の落ちてかゝッたやうな卯の花白く、夕月に一層の趣致を添へた庭園に對ッた座敷の椽頭近う、柱に身を凭せかけて歌膝をして据ッたは主人の笹川三郎、南山の戰鬪に驍名全軍を風靡した歩兵大尉その人である。

『モウ卯の花も咲いた時分だらうな。』と斯う淋しい聲で獨言のやうに云ふを、直ぐその前に腰掛けて、何となく深い懷しい思ひの胸を衝いて來るやうな、この景色に恍然として凝視ッて居た美津子は此方を向いて

『はア。』と應へて夫の顔を熟々と見て居たが、何時かその眼には堰き止め敢ぬ涙の露が宿るのであッた。

少時して『さうかなア。』と三郎は思ひ出したやうに云ッて、膝を頽してグッタリと首を挽れる、道理や修羅の巷には鬼神の如き適ッ晴れの働きをなした三郎も、運拙くして今は物の黒白も分ち得ぬ、あはれ失明の人なので——

明失へる若き夫と、美しきその人の妻とは寸前の所に相對して座しながら、互ひの呼吸は耳にするほどながら、默然として一語を交へず、閑かなる夕月の庭先に更に一段の寂しさを加へた。

杜が近いので稀らしくはないが、今宵もモウ一聲、杜鵑が軒端近くを掠めて啼いて行ッた後、上野の鐘は九時を報ッた、美津子はその鐘の音に呼び覺されたやうに顔を仰げて吾に返ると、自分は何故斯ンなに氣が弱いのだらう、眼界の見へぬ夫を慰めねばならぬと云ふ大任のある身でありながら、又しても夫と同じやうに寂しい心を起して、それで何うして夫の心が慰められやうか、妻たるの道を盡したと云はれやうかと思ふと、モウ弱い心を出しては居られぬ、吾から吾を勵まさずには居られなかッた。

『貴方、琴でもまた彈きませうか。』と優しく尋ねると

『乃公も久振りで琵琶を彈じて見たい、こゝへ持ッて來て呉れ。』

美津子は夫が明を失ッてからは、口へ出してこそは云はないが、何うかなしてその寂しい夫の心を慰めやう〳〵と思ふけれど、談話をして居てはツイ自分までが寂しい心になッて、慰むるよりは却ッて苦しめるやうなことが多いので、什麽な時には三郎が音樂好きなのを幸ひに、手馴れし琴を彈じて慰むるのを常として居た、三郎はこの妻が心づくしの琴の音を聞く時ほど心に慰安と平和とを感ずることはないのであッた、のみならず三郎は明を失はぬ前から琵琶が好きで、玄象青山のそれとは較べものにならぬが、白雲と號けた一面の琵琶を持ッて居たのである、今となッては夫れが妻を除けば他に代ふべきものゝない最愛の友となッて居るのである。

聽て其處には琵琶と琴とが列べられた、三郎は先づ琵琶を取上げて抱いた、俄盲目の撥を取るも探り手の、傍に見て居る美津子の心はまア甚麽であらう。

　屍の山血汐の川　　風腥さき南山や
　皇國のためと一筋に　　顧みもせぬ武夫の

三郎は今追懷多き「南山の役」を彈じ始めた、撥一度び絃に觸れては、或は急霰の如く、或は細流の如く、呂律は節に適ッて聲は悲壯、宇佐の神前に經正の彈じけむ流泉啄木の曲もいかで是には及ぶまじと、美津子は胸とどろかしながらも衿を正して耳を傾けた。

　砲の響は殷々と　　山かも崩さんばかりにて
　暗雲忽ち四顧をこめ　　乾坤晦冥紫電閃き

こゝに至ッて三郎の眼底には、歴然と當時の戰場が描き出されて、曲はます〳〵神に入るのである。

　滿身の勇氣をふり起し　　決然突擊の擧に出でぬ

と上段を彈じ終へたが、興更に湧きて二段に入り

　潮の如き勢ひにて　　敵の左翼に猛進し
　雨下する砲火を冒しつゝ　　敵の陣地に肉薄なしければ
　伏屍山を築き　　流血川をなすばかりなり

ア、猛進肉薄、三郎が敵の彈片を受けて明を失ッたのは當時である、こゝに至ッて三郎の全身の血は湧き肉は躍ッた、額からは熱い汗が瀧の如くに下だるのであッた、雖然、美津子は興妨んことを怖れて、手巾は手にしながらも夫を拭ふを躊躇ッた。

　遂に南山の敵をうち拂ひ　　歡聲の轟
　天地も裂けむばかりにて　　各砲聲は酣さす
　旭の旗の翩翻と　　夕の空にかゞやきぬ

次第に調は和いて來て

　夏草茂げき南山の　　苔路の夢よ安かれな
　五月の空の雨もよひ　　冷たく眠る武士の
　高き勳功を思ひては　　忍び音洩す時鳥
　鳴くや血汐の——

疲れやしけむ、こゝまで來て三郎は撥を投げた、美津子は進み寄ッて其の額の汗を拭ひ遣りつゝ、

『まア酷い汗、お疲れなすッたでせう、幾度び聞きましても厭きませむこと。アノ砲火を冒して進んで行く所になりますと、何時でも貴方が先頭に立ッて戰ッて在らしッたのが見へますやうで。』

『ハ、、、だが實際彼所になると乃公も琵琶を彈いて居るのではない、戰ッて居るやうな氣がするのでな、彼所に力が入ッて了ふので後が遣れなくなるのは可笑しい。』

『だッてもそれが本當ですわ。』

『さうかなア、まアお茶でも一ッ貰ッて今度はお前の琴を聞かう。』

『私は何にしませうか知ら、今の後ですから長いものは何んですわねえ。』

『イヤ長いものが宜い、短いものは聞き應へがなくッて不可ん、こうと、八重衣を暫く聞かぬが。』

『それでは八重衣にしませうか。』

『根引の松も長いこと聞かぬな。』

『ぢや根引の松にしませう。』

『うむ、夫れにして呉れ。』

話しながらに香り高き新茶を啜ッて後、三郎が今の身にならぬ以前は何所の音樂會でも、生田流の名手として和樂界の女王の如く持て囃されて居た美津子が、根引の松の調べ床しき、微妙の音律、更け行く夜半に愈々冴へ、天來の秘曲を聞くかのやう、三郎は腕を組むで、吾を忘れてその妙なる調べを聞くのであッた。(完)

東西名婦傳

ライヲン女史

龜山郭公

北米マッサチユーセッツ州の西部の一寒村バックランドに、エーロン、ライヲンと呼ぶ一農夫ありたり、此農夫の第五女メリー、ライヲンは世界有數の教育家にして、一千七百九十七年二月に生る、性快活にして慈愛に富み、頗る怜悧にして記憶力強く、小學校にては常に首席を占めたり、女史十八歳の時教師となり、些少の俸給を受られしが、無益に濫費することなく、之を蓄積して、又高等の學校に入り、遂に廿五歳の時、サンダーソン中學の助教となり、後ち郷里に歸りて、教育に從事し、非常なる好評を得て、新に校舍を設けたるが、先師グラントの招きに應じ、郷里の人々に惜まれて、イブス、ウイッチに行き、居ること六年、女史の生徒に對するや、少しの隔意なく親切に訓導し恰も慈母の如く、書物の外に、人道、品性、技藝、等に及びければ、皆な女史の高德に心服せざるはなかりき、加之其俸給の一部を別けて貧生徒に與へ、自らは極めて質素を旨とし、自ら紡ぎ、自ら織りて、青色無地の服を常に着用し居たりと云へり。

女史今や三十三歳、結婚を申込もの屢々あれど、皆な辭して諾せず、家庭の快樂と、愛情とを犧牲として、女子の爲めに、高等の教育を授くべき、校舍を設立せんと企て、教員を辭して、資金募集に從事し、遂に千八百卅七年サウス、ハドレーと呼ぶ閑靜の地にホリヨーク女學院を設立したり。

女史の生徒を遇する極めて親切、口を以て教ゆるのみに非ず、躬行實踐、以て生徒を導きしかば、皆な慈母の如くに慕ひ、自ら其高潔なる德操に感化せられざるなく、其高風を慕ひ來るもの二千名の多數に達したり、而て其卒業生は活社會に出でゝ、教育界、宗教界に身を投じ、粉骨碎身、以て人類の爲め、文明の爲めに盡したるもの少からず、北米合衆國の基礎たる多くの賢母良妻、亦此内より輩出せり。

紀元一千八百三十[illegible]年三月五日、女史は遂に永眠せり、時に年五十二、其遺骸は、學校の庭に葬り、美はしき大理石の碑は其上に建られたり。

ホリヨーク女學院は、其後年を逐ふて、盛大に赴き、今や十町に近き敷地と三十萬弗の資本金とを有し、圖書館あり、美術室あり、天文臺等備りて、最近學問の研究に便宜を與ふ、創立以來卒業生を出すこと約一萬人と稱す、而して其多くは、合衆國の基礎たる良教員と良夫人なり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

自戒

幹事　浦月子

人は天命を受けて假に此の身に生れ世の中に事を成さんとす、されど大方は假の身を我物と思ひ、本性を知らずして肉欲を貪り、醉生夢死のはかなき終りを操り返すぞ多かる、苦しきも樂しきもめぐりて環の如く、實に塞翁が馬とやらん、一度生を受けては徒らに實務を忘るべきものならず、其の人々の意志に依りて取るべき業は澤なるも、正しき心の道は一つ、いかで二つの日や有らん、世はなべて地球の巡るが如く、盡すべき務を盡し、行くべき道を行き、暫くも止まる事なし、今日十里の道をゆかずして三里を餘さば、明日の里程を多くして又其の半を餘すならん、かくして日數みちなば、遂に彼岸に至る事を得ずして身を終りてん、天に受けたる此の實務を果さずして復命何をもてせん、又世に出てゝ殘る債務と新なる職務とを課せられ、いかに苦しき重荷とやならん、苦しき世渡りはみなこの債務の重なりたるを操り返すなり、多幸なる人は務をなしをへたる人々なるべし、此の人々も亦務を怠り德を積まざれば、子孫いかでか永く榮えん、身を愼み生を保ち、克く天職を盡し性を煉り、氣を養ひ樂を宇宙に得て長しなへに靈妙の福利を占めんには、山は崩れ海はあせぬとも、いつの世にかは苦しみを受くべき、姮娥高く澄みて分外に清けむ。

婦人の經濟思想（下）

米國　小崎千代子

▲婦人の服装　米國の婦人が服装を立派にして行く所は教會でありますが、始めて日本から行ッたものは是れを見て驚きます、毎週出る教會にすら斯くまで奢美を盡して居るとすると、其他の事は推して知るべしてある、非常なる贅澤をして居るであらうと思ひますが、實際はそれと反對て、絹布などを纒ふて居る人は甚だ少いのであります、唯だ色の配合の上手なのと、鳥渡した飾りにも細かき注意をする爲めに、一見非常に贅澤な服装をして居るやうに見へるのであります、米國は何にから何にまて經濟的に出來て居りまして、日本の婦人のやうに五年も六年も手を通さない着物を仕舞ッて置くやうな不經濟なことは致しません、さうして一番の服でも或時は袖口を廣くし、或時は狹くし、又は前後の格好を何すとか縮めるとか、夫れは仕立屋の手を藉らずして自分で仕立て直すとが出來るから、流行に後れないやうに仕立て直して着ます、故に日本人などの眼から見ると常に立派な、贅澤な服装をして居るやうに見へますが、左程金をかけて居るのではありません、最も夜會服などには何萬圓と云ふ大金をかけて居るのもありますが、日本婦人のやうに着もしない不用な衣服を澤山拵へて仕舞ッて置くやうなことを致しませんから、米國の方が經濟的でもあり、且つ實用的でもあると思ひます。

▲流行の先導　米國の婦人は鳥渡の閑にも能く讀書を致しますから、少しく教育あるものは世界的智識に富んで居りまして、精神の修養、または育兒家政の上等にこの智識を應用するは勿論、服装に就ても各國の流行に通曉して居ります、其所て自ら經濟的意匠を凝らして新くし流行を作ります、故に日本の如く服装の流行は花柳界を中心とするやうなことはありません、隨ッて比較的上品なものばかりが流行致します、是れ皆な婦人の智識が進歩せるに依るのであります。

▲健全な思想　要するに米國人の長所は獨立心の强い所であります、是れが進歩的の人物を作り出すと同時に國家の發達を助けて居るのであります、人に頼らぬ習慣を作りますと、大事も小事も是非自ら活動しなければなりませんから、自然に心身を働かせます、其の爲め心身共に壯健になり、延いては快活な氣風も養はれ、健全なる思想を貯へることが出來るやうになります、故に米國の社會には健全な思想が多いやうに思はれます。

▲婦人の奮起　對岸の米國既に然り、時勢の變遷につれて思想界にも變化を來たしましたる目下の日本に於ても、經濟の點に就いては大いに考へねばならぬことと思ひます、殊に婦人の經濟思想は國家に重大なる關係を及すものであると思ひますから、志ある婦人は卒先して善と認むる理想は少しづゝても實行するやうにしたいものであります、斯くして行く時には國威の發揚と共に内容も完備するに至るであらうと思ひます、兎に角今は日本婦人の奮起すべき時代であります。

銷夏號發刊

吾が『愛國婦人』は來る八月二十日發行第百拾號を以て銷夏號となし、左の規定に依て諸姉の投稿を滿載いたす可く候

文學士　下田次郎氏　選

一夏の教訓

人は春夏秋冬自然の感化を受けずして居らるゝものにあらず、夏は果して如何なる教訓なるか、諸姉の感想を承りたし

ドクトル　川瀬元九郎氏　糸左近氏　合選

一夏の簡易なる小兒寢衣

衛生的小兒の寢衣としてはドンナものが一番適當なるや、諸姉の考案を提出されたし

武田櫻桃氏　三島霜川氏　江戸靜川氏　合選

一短篇小説

家庭的、または心靈的のものなれば文體はドンナてもよし、一行十八字詰百二十行以下にして總ふりかなを附けられたし

高島平三郎氏　選

一小兒の夏の暮し方

永い夏の日に、學校も幼稚園もなく、困るは子供の夏の暮らし方なり、さりとて眠てばかりも居られず、どう暮らすが一番良ふか實驗又は考案を寄せられたし

有島幸子刀自　選

一半ヶ年の家計

明治三十九年の半は過ぎた、主婦はこの半ヶ年の家計をドンナに處理されたか、豫算と決算とを對照して聞かされたし

右投稿はいづれも七月三十日限り固く締切り申し候
倘當選の諸姉に對しては聊かながら御報酬呈上仕まつる可く候

投稿を募る

懸買と現金買

某男爵夫人

▲懸買と現金買　と何れがよいかと云へば、是は双方對比して論ずる迄もなく、現金買ひの方が得策であることは明瞭でありますが、こゝに懸買ひと現金買ひとの利益不利益の點を擧げて見ますれば

▲第一懸買ひは代價が高いに極つて居ります、其の次第は商人の方でも懸賣りに對する危險と、支拂ひ遲滯の爲めに生ずる利子を見込むて當然懸けて賣ります、現に私が近頃莢豌豆を一升懸買ひの八百屋と、現金買ひの八百屋とて買ひ試みましたところ、現金買ひの方が代價が安いのみならず、其の數量も多く品質も上等であることを認めました。

▲第二の缺點は　何うも懸買ひであると物品を買ひ進む恐れのあることとです、足も運ばず現金も出さぬ所から、ツイ不用な物品までも多く買ひ込みます、且つ其の買ひ方を下婢などに一任して置きますと、下婢は己の財布に影響を及ぼさぬこととてありますから、不用な物を買ひ込むこと實に甚だしいのであります。

▲第三新しき物　を得ることが懸買ひては出來ません、懸賣りの八百屋が持ッて來る板の帯所に依つて現物も見ず數量も計らずに買ひ込むのは恰も暗夜に物を摘むと同一て、甚だ危險なことてあります、買ひ上げて後品物が古かつたり、數が不足てあつたりして、家庭に供給することの出來ぬことがあります。

▲懸買ひの習慣　斯くの如く懸買ひには種々なる不都合があるに拘はらず、日本の家庭、殊に中流以上の家庭ではこの懸買ひの制度を廢することが出來ません、それは古來よりの習慣て、婦人が容易く外に出られぬのと、一つは小商人と應對して物品を買ふが如きことは甚だ卑むべきことの如く考へられた弊害て、一朝一夕に矯正することは出來まいと思ひますが、何うか斯かる弊風はドシ〳〵排斥して進むやうにしたいものであります。

▲通帳の不完備　彼の懸賣りの通帳と云ふものが甚だ不完全なもので、品物を買ふ度毎に記載して双方其の正確を認めると云ふことがなく、八百屋なり肴屋なり皆んな自己の所に備へてある控帳に依つて一度に書き上げ、以て代金を請求すると云ふ有様であります。

▲記載方に就て　斯様に致すと、故意に書き加へと云ふことはないにしても、甲家の買物が乙家の通帳に書き上げらるゝと云ふ恐れがないとは限りません、而已ならず、是れては一ヶ月何程買ひ込むだか、豫め其の額を知ることすら出來ませず、家計を營む上に甚だ不都合てありますから、主婦たるものは任務として通帳を嚴密に調べると云ふことは最も必要なことてあります、決して下婢などに一任すべきてはありません、故に皆さん方と共に進んで現金買ひの風習を作るやうにしたいものてあります、倘ほ現金買ひの實行が出來ねば、責て通帳の記載方だけても嚴密にするやうにしたいものであると思つて居ります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會記事

◉評議員會　前號の本紙上に每月の例會日を變更せし旨記載せしは誤りにて六月分及七月分に限り特に繰上げ開會するものにて七月分の日取は左の如し

七月十一日（第二水曜日）午後一時三十分

◉理事顧問會　同上の理由にて七月分は左の日割なり

七月四日（第一水曜日）午後一時三十分

◉六月分評議員會の狀況　前號豫報の如く六月分評議員例會は本月十三日午後二時本部に於て開會せり出席者は理事近衞貞子評議員岡部紙子佐々木貞子板垣絹子阿部篤子神山万佐子尾崎八重子鍋島易子井伊倘子松平須磨子内山訓子棚橋絢子佐藤猶子森村菊子弘田增子稅所永子宇佐川種子有島幸子高木富子三井五十子三井拾子三井榮子仁杉歌子岩佐德子奧村五百子藤井とく子鳩山春子大藏松子東郷鐵子中山幸子黑木百子伊集院繁子柳谷千代子豐島文子早川里子濱尾作子三井照子新山うた子三輪田眞佐子南郷柳子の諸氏にして左の議案を可決せり

（一）本會の爲に盡粹したる男子には支部長の申立により金色賛助員章を贈與する件

（二）本會旅費規則制定の件

（三）石川支部内軍人遺族授産場設立認可の件

尙評議中理事一名の撰擧を行ひ滿場に計りしところ多數にて會長一任說に贊成し依て會長は評議員子爵夫人岡部紙子氏を指命し直ちに總裁殿下の認可を申請せし處總裁殿下より御認可ありたり

◉會長よりの通牒　各支部に對し會長より左の通牒を送られたり

拜啓愈々御多祥奉賀候陳者久子等曩に日露の戰機動き軍國將に多事ならんとするの秋に先ち同胞二千五百万の姉妹方に申告する處ありしはや二年半の昔とはなりぬ當時我國運は果して如何なりしか日本男子は凜乎奪ふべからざるの元氣ありとはいへ一度當時内外の狀況に想及せば身戰き肌に粟するものなきにあらず實に恐れて憚れざるを得ざるの思ありき身苟くも軍籍にあるものは申すまでもなく男となく女となく翕然として國家的熱誠に驅られ吳越尙且つ舟を同ふして戮力協心澎湃たる風浪を凌がんとするの慨ありき宜なる哉一片の檄文は職員諸君の奬勵と相俟ち一瀉千里の勢を以て巾幗社會を衝動し戰時中會員は欝勃として增加し本會の活動亦目ざましきものあり後援慰藉の事業に於て成功したるのみならず本會基本金は積て三十餘万圓に上り會員四万六千餘なりしもの急に其十倍以上に達せり亦盛ならずや．然り而ふして此大戰役に於て損傷したる人命も亦極めて多大ならざるを得ざりき六万有餘の戰死者に加ふるに約三万の病歿者を以てし且調査未了の癈兵と日清及西南役のものを算する時は實に十數万の多きに上るべし此中非境にして救護を要すべきもの三分の一或は四分の一と假定する四乃至五万に近き被救護者の實數を生ずべきを豫定せざるを得ず今や本會會員五十万に達せりと雖も猶後者の數を以て前者の數を救護せざるべからざるものとせば今更其責任の重且つ大なるを覺悟せざるべからず實に寒心の至ならずや本會は今年二月二十一日畏くも皇后陛下より本會の盡瘁せる救護事業を御嘉稱あらせられたる令旨を辱うし又去月新宿植物御苑に於ける總會の節陛下の行啓を辱うし本會事業の益々盛大に赴かんことを望ませ給ふの令旨を拜受するの光榮を得たり之に對し總裁殿下は戰後の大局に當りて我救護の實を擧げ以て大御心を安じ奉るべきの意を奉答あらせられたり本會會員たるもの彼を懷ひ是を念ひ一層奮勵努力以て大に本會主旨の貫徹を勉めざるべからず今や本會會員を百万人以上に增加し以て此事に當るとせば庶幾くは我救護事業の實を擧ることを得ん乎然れど此の百万以上の會員數を得んには各支部に於ける會員數を女子千人に對する四十の比例以上に進めざるべからず是一日も忽にすべからざるものとす

抑々本會救護實施の方針は本部は僅に規準數（女子千人に對し十八人）の會費を以て諸般の基を示し其以上の實行は寧ろ支部の活動に任じ別に基金法を設けて本支部の基礎を堅からしむ今や前段の標準に據りて會員を增募すれば目下の急務に應じ本會主旨の貫徹を見るに至らん此大募集たるや至難のことたりと雖も不肖久子等各支部長諸君と共に益々忠愛の精神を奮起し鞠躬盡瘁此擴張事業を成功し以て我至仁至慈なる國母陛下の懿旨に副ひ奉らんことを切望して止まざる處なり其擴張方法の如きは顧問殿と御協定の處置あらんことを願ふ此段總裁殿下の御意圖を奉し得貴意度候敬具

明治三十九年六月十一日

愛國婦人會長公爵夫人岩倉久子

◉寄附金　其後拾圓以上の寄附金者左の如し

貳百九拾圓	麴町區	三井五十子
百五十圓	本郷區	佐藤靜子
百四拾四圓	北豐島郡	篠近子
百參拾八圓	麴町區	三井晴子
百圓	伯爵夫人	阿部篤子
百圓	侯爵夫人	佐竹祚子
百圓	本所區	安田房子
百圓	麴町區	東郷鐵子
五拾圓	麴町區	岩佐德子
五拾圓	岡山縣	金光女子
五拾圓	四谷區	吉田知吉
參拾圓	日本橋區	渡邊東一郎
	米國人	ミセスバック
參拾九圓余	英國人	イー、グレース、ガブロン
貳拾五圓	男爵夫人	有地拾子
貳拾五圓	子爵夫人	松平雅子
參拾圓	大阪府	十合貴美子
拾圓	富山縣魚津町	眞宗婦人會
拾圓	前子爵夫人	山地謙子
拾圓	日本橋區	星野佐代子

外に宮城支部へ資本金として寄附左の如し

金參拾參圓五拾錢　宮城縣菊地ちとり子

右の内吉田知吉氏の分は同氏の亡母久子氏の遺言に依り寄付せられたるものなり

◉評議員奧村五百子氏　大阪及名古屋の遊說を終へ去る十日歸京更に十四日東京出發福島支部を經て山形支部內西田川郡幹事部總會に臨席したり

◉有功章受領者　本會第五回總會の節一二等有功章を受領されたるは左の諸氏なり

▲一等有功章受領者

功績	理事	前公爵夫人	近衞貞子
同	同	侯爵夫人	大山捨松
同	同	子爵夫人	谷玖滿子
同	評議員	同	伊東美津子
同	同	同	岡部紙子
同	同	男爵夫人	松平須磨子
同	同	同	淸浦錬子
同	同		鳩山春子
同	同		濱尾作子
同	同		高木鐐子
同	同		柳谷代子
同	同		佐藤猶子
同	廣島支部長		山田竹子
同	同顧問		山田春三
同	兵庫支部幹事長		肥田野喜惠子
同	同		大塚慶子
同	東京支部幹事	男爵夫人	尾崎八重子
同	同		前田登美子
同	同		井上八重子
同	評議員		岩佐德子
同	滋賀支部副長		伊澤德子
同	同幹事		鵜飼喜久子
同	京都支部主事		入田一精
金千圓寄附	東京支部		島津正子
金三百圓寄附	評議員		渡邊稻子
同	同		中井かね子
同	同		島田信子
同	同		三井五十子
同	同		佐藤靜子
同	同		安田房子

▲二等有功章受領者

功績	監事	公爵夫人	九條惠子
同	評議員	伯爵夫人	板垣絹子
同	同	同	佐々木貞子
同	同	子爵夫人	戸田時子
同	同	前子爵夫人	山地謙子
同	同	男爵夫人	提常子
同	同	同	高木富子
同	同	同	黑木百子
同	同	同	神山萬佐子
同	同		伊集院繁子
同	同		豐島文子
同	同		長岡芳子
同	同		南郷柳子
同	同		室田勢以子
同	同		宇佐川種子
同	同		山脇房子
同	同		山本たほ子
同	同		松浦島子
同	同		藤井とく子
同	同		郷濱子
同	同		坂井春子
同	同		澁谷知和子
同	同		關むら子
同	同		東郷鐵子
同	北海道支部評議員		山口光子
同	香川支部副長		長町武子
同	佐賀支部副長		河島愛子
同	同		西鈞子
同	埼玉支部副長		黑田哲子
同	事務員		富樫眞喜子
同	同		野中彌知子
同	兵庫支部幹事		鈴木ナカ子
同	東京支部幹事		大谷かち子
同	同		堀內ゐん子
同	同		田村彰子
同	同		村田うた子
同	同		黑田琴子
同	同		岩佐千賀子
同	同		秋間タメ子
同	同		小浦義子
同	同		東村[illegible]子
同	同幹事部長		丸山[illegible]子
同	山梨支部長		武田はま子
同	福井支部長		坂本急子
同	群馬支部副長		堀ミツ子
同	同評議員		大東タケ子
同	同幹事部長		石川くま子
金貳百圓寄附	評議員	伯爵夫人	阿部篤子
金百五拾四圓寄附	同	侯爵夫人	佐竹祚子
金百五拾圓寄附	同	子爵夫人	松平雅子
金百五拾圓寄附	同		三井晴子

貴支部活動狀況每號本紙上に掲載仕度候につき發行日前（五日前）に當所へ着致し候やう御報告被下度候

愛國婦人發行所

各地支部御中

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會記事

◎各地支部狀況

▲千葉支部　同支部會員は昨年來俄かに增加し來りしが尙ほ同部總會迄には一層勸募に努めんとて正副部長、評議員は部署を分ちて各部に出張し又幹事部にても熱心に幇助しつゝあり續々入會者を得る模樣にて近くは副長山本嘉壽子（裁判所長夫人）は山武郡へ評議員荻生とみ子（醫學專門學校長夫人）は匝瑳及東葛飾郡へ同瀧川竹子（檢事正夫人）は海上郡へ同新妻みよ子（警務長夫人）は長生郡へ出張せられたり又た千葉縣千葉町在住の愛國婦人會員は日露戰役に際し同町より出征せる軍人及其遺家族に對し婦人として應分慰藉の意を效さんことを謀り三十七年二月有志婦人會なるものを組織し毎月廢物の料を金に換へ醵出することゝし一口五錢宛身分に應じて集めしもの本年三月迄に人員三百四十餘人にして金額凡八百圓となり外に篤志者の寄贈金凡四百圓を得しが右を以て出征軍人餞別、負傷見舞、遺家族救助、出產死亡病氣の見舞等其他貧困者へは歲末に餅を贈り兒童には學用品を給するが如きあらゆる方法を盡して同情を表し又幹事は各方面を分ちて訪問をなし或は慰藉會を催ふし娯樂の便を與へ頗る出征者を慰安せしめしが愈平和克復諸兵凱旋せしに依り紀念として同町實業補習學校の製作に係る黒塗に月桂樹を現はせる巧妙なる重箱一個づゝを贈りて本事業の終了となし四月廿九日千葉師範學校講堂に於て解散式を擧げたるが頗る盛況を呈したり

▲德島支部　同支部にては此程德島公園内に於て同縣下臨時招魂祭典を行はる當日軍人遺族の參拜せるもの二千二百四十九名又行軍を兼ね參拜の爲め第十一師團より鮫島師團長以下將卒一千三百名來縣せり支部に於ては支部長以下職員會員二百餘名各部署を定め早朝より夜に入る迄之れが待遇に盡力せり軍人遺族の接待としては遺族休憩所に於て茶菓を饗應し懇切に其勞を慰め又紀念品交付所を設け支部顧問の揮毫せる紀念扇子及菓子を各遺族に贈與し來縣兵士には夏密柑を各自に配與し夜間公園内に催したる將校歡迎會に於ては特に支部より汁粉蕎麥の模擬店を二ヶ所に設け會員自から之れの接待に熱心從事し歡迎の誠意を表し尙招魂祭式場には大幟二本を寄進せり

▲青森支部　同支部内步兵第五聯隊及び弘前衞戍地（第八師團司令部所在地）に於て何れも臨時大招魂祭擧行の際該支部より紅白の大鏡餠壹重ねづゝを神前へ供へ參拜の遺族へは紅白の小餠二箇と優美なる紀念風呂敷一枚づゝを贈與し西澤支部長始め各評議員、幹事部長、幹事、贊事等擧つて出張し遺族の接待に努めたるに參拜の遺族は何れも感喜措く能はざるものゝ如く認められたり、而して兩日とも師團將校側よりは婦人會員を各隊より招待せられ盛大なる慰勞の宴を張り戰時中盡力の廉を以て慇懃に謝意を表せられたる由。

▲宮城支部　同支部内登米郡幹事部に於ては總會を去る四日同郡登米町高等女學校内に於て開會せり當日は本部よりも遊說員野中彌知子を派遣したるが會員の會するもの七百餘名式の始まるや顧問たる郡長河野道久氏開會の挨拶を爲し龜井支部長の祝辭山形評議員の本會主趣書の朗讀幹事部長河野常子氏の答辭會員總代幹事伊達秀子氏の祝辭野中遊說員の演說を終へ餘興あり午後六時散會したり尙同總會については同地の名家伊達直子氏の盡力多大なりしと云ふ。

▲新潟支部　同支部にては去月本會第五回總會の際在京阿部新潟支部長より各郡市幹事部長、幹事及出京の會員諸氏に對し會員增募勸誘方を懇囑せられ又本月九日郡市長會議の際阿部同支部顧問より幹事部顧問たる各郡市長諸氏に對し左記の通り會員の增募勸誘方を懇囑せられたり尙同支部内に於ては目下會員追日增加の趨勢を呈しつゝありと云ふ

愛國婦人會員の增募勸誘に付ては過般在京支部長より各幹事部長又は幹事諸子に懇囑する所あり幹事部顧問たる諸君は既に知悉せらるゝ所なりと確信す幹事部長及諸君の盡力に依り之を昨年の今日二千餘人なるに比し約三千人の增加を見るは本事業の爲め深く喜ぶ所なり就中北蒲原郡及新潟長岡兩市の如きは既に標準の數に達し其他の各郡に於ても益々增加の趨勢を呈せるものなきにあらず故に此際各郡一齊に勸誘を試らるゝに於ては所期の會員を增募するに難からざるべし然れども今や客歲水害凶歉の餘を承くるを以て增募上多少の困難は免れずと爲すも彼の奥羽三縣の饑饉地方に於てすら尙ほ遂に本縣の步合に超過するの會員を有する以上は慈仁博愛の心に富み公共事業に熱心なる新潟縣民が奥羽三縣の下風に立つは忍ぶべからざるべし況んや其勸誘たる無資の窮民に強ゆるに非ず何れも中流以上の人に勸誘するものにして其金額亦特別會員と雖も一ヶ年二圓通常會員は僅に一ヶ年一圓に過ぎざるに於てをや就ては此際必ず勸誘を努められ今後二ヶ月を期し一萬乃至一萬五千に達する樣盡力あらんことを切望す既に會員一萬乃至一萬五千に達する上は支部總會を開き特に總裁殿下の臨席を上請し會長岩倉公爵夫人以下本會役員の臨席を求め戰死病殁者の遺族等を招待して之を慰藉せんとす諸君務め此意を諒せられんことを望む

▲佐賀支部　同支部内東松浦郡唐津町に於ける活動狀況は左の如し。

一　本會は東松浦郡軍人待遇會に於て擧行したる招魂祭及び凱旋祝賀會に於て左の事を實行したり

二　當日午前七時愛國婦人會員一同虹の松原招魂場に集合して設けたる接待所に茶菓を備へ各自の希望に應じ之を供したり

三　招魂祭典には重立たる會員三名を代表者として參拜したり

四　祭典式終りし後ち軍人待遇會より遺族へ贈與する菓子及赤飯並に婦人會より贈與する饅頭（五個宛）を順次相渡し群集の中遺族たると一見識別する爲め國旗（小旗）を與へたり

五　遺族は閉式後唐津公園に於ける凱旋祝賀會へ臨席するに付て準備し置きたる解船拾艘に樂隊を乘せ松浦川字千年塚より公園渡船揚に乘り下し其途中奏樂せしめたり

六　公園に上陸するや遺族一同は愛國婦人會委員佐藤林賀に導かれ祝賀會場に參列し婦人會員は宴會場の接待所に集合し祝賀會の式了るや遺族一同に待遇會より出す所の折詰瓶酒の配布を擔當し遺憾なく配與したり

七　招魂場に於て遺族總代及軍人待遇會長原田郡長より挨拶の辭あり又町村長より謝辭ありたり

八　本會の事業として招魂場には唐津病院より醫員壹名看護婦壹名公園には唐津共立病院より同樣來揚を請ひ出張ありたるも一人の異狀なかりしは幸甚の至りなり

九　前項乘船用の解船雇入れに委員佐藤林賀の盡力に係り唐津石炭取締より婦人會への寄附に成りしものにして其篤志謝するに餘りあり

十　招魂祭饅頭壹對員數九百個並に遺族壹名に付同五個宛配與せし員數百個及び茶等は總て婦人會員に於て負擔せり

▲愛媛支部　同支部顧問たる安藤縣知事は支部長安藤菊子氏及支部職員と共に先頃遺族癈兵六十六戸を慰問し其慰問狀況錄を本會に送附し來れり其一部を錄すれば左の如し

步兵一等卒　白石松太郎

右は旅順攻擊の際東鷄冠山北砲臺に於て明治三十七年十二月十八日名譽の戰死を遂げたるものにして其父は松太郎が出征中二豎の犯す所となり終に黄泉の客となる而して妻亦病褥に在りしに松太郎戰死と聞くや且つ驚き且つ悲み纖體病劇遂に眠したるを以て殘る所僅に本年六十歲なる老母と五歲なる少女及四歲なる童男のみにして衰老既に他の保護を受くべき此老人が頑是なき可憐の孫二人を撫育せざる可からざるに至り而も其生計の如きは眞に赤貧洗ふが如く門破れ壁落ち僅に雨露を凌ぐべき茅屋に住み二孤兒を慰めつゝ餘念なく絲繰の賃仕事を營み一日僅に三四錢を得るに過ぎず糟粕を嘗めて露命を繫ぐの狀得て筆紙の盡す所にあらず

▲石川支部　同支部内金澤市に於ては癈兵三人に於て煙草屋を營むあり二人の癈兵は共に片手なく一人の癈兵は片足なき人のよしにて手のなき人は片手づゝにて車を押し行商し足なき人は店番を爲し三人相共同して商業を營み社會の同情も多く商業も繁榮に赴きつゝあるよしなるが茲に一の難事は毎日食事の用意に甚だ苦痛を感ずるよし此程同地大會に臨席せし際奥村刀自之を聞き早速一の考按を立て葬儀のある家にては必ず供養物の一つを此癈兵の家に運び與へる事に僧侶に於て說教の際陳ぶ可しと相談し歸京せし由なれば定めてよき救濟方法を得るならん。

▲岡山支部　同支部員が稿軍を爲したる勞を慰する爲め此程同地後樂園に於て慰勞會を催したる由。

愛國婦人會々員女子人口比較表（明治三十九年五月末日現在）

支部名	特別會員	通常會員	合計	三十六年末女子人口	女子人口百人ニ付會員比例	贊助員
山口	八二〇	二六、三三七	二七、一五七	五〇六、九二〇	五、三六	一、〇七五
石川	一、七六四	一八、七二八	二〇、四九二	三八五、四七八	五、三二	七八〇
山形	八二〇	一七、一九一	一八、〇一一	四三九、六一八	四、一〇	一四三
岡山	一、〇三八	一九、六五二	二〇、六九〇	五七七、二七二	三、五八	三六三
熊本	二、八〇三	一六、五八九	一九、三九二	六一〇、四一一	三、一六	二、二九九
富山	七九八	一〇、六八二	一一、四八〇	三八四、九八二	二、九八	六四三
群馬	一、三七三	一一、七四三	一三、一一六	四五四、一七一	二、八九	一一四
愛知	一、一八八	二三、七四三	二四、九三一	八六八、五三八	二、八七	六三一
香川	七八三	九、〇八三	九、八六六	三四七、八九〇	二、八四	三四七
兵庫	二、〇三二	二三、〇九二	二五、一二四	八九三、七三四	二、八一	四七五
福岡	二、四〇三	一八、九六七	二一、三七〇	七七二、七四三	二、七七	九五四
北海道及函館	二、七三八	一一、二九九	一四、〇三七	五〇七、六三八	二、七六	一、〇五八
長崎	三、〇七九	九、九九七	一三、〇七六	四八九、三五〇	二、六七	五二
宮城	一、四三四	一〇、二七六	一一、七一〇	四四五、〇四七	二、六四	七〇七
京都	二、〇七二	一三、四七三	一五、五四五	五二〇、三九五	二、五九	三六三
愛媛	三五九	一二、二二二	一二、五八一	五一一、三九六	二、四六	二八三
青森	一、〇五三	六、六二四	七、六七七	三二二、二一一	二、三九	二四一
大分	七九五	九、四五一	一〇、二四六	四三〇、〇二五	二、三八	四一三
神奈川	一、三七〇	一〇、三九九	一一、七六九	四九九、六二三	二、三六	二六二
奈良	二九八	五、六八三	五、九八一	二七八、一九一	二、一五	三二一
高知	二五六	六、四二九	六、六八五	三一八、二四五	二、一〇	六一三
三重	三九四	一〇、四一六	一〇、八一〇	五二二、〇四三	二、〇七	三四三
福井	八〇〇	五、八二六	六、六二六	三二〇、一五四	二、〇七	九八八
岩手	六五七	六、八六六	七、五二三	三六九、二七八	二、〇四	二〇六
宮崎	二三九	四、七四三	四、九八二	二四七、二五二	二、〇一	四四七
島根	二九五	六、九七九	七、二七四	三六二、六三五	二、〇一	四二〇
佐賀	七九四	五、七七二	六、五六六	三二七、六七八	二、〇〇	一七一
福島	一、一三九	九、四四二	一〇、五八一	五八二、一五六	一、八二	五二五
滋賀	三九二	六、一〇七	六、四九九	三六四、六八八	一、七八	二、七五三
東京	七、一九五	一一、九一七	一九、一一二	一、一五七、五一四	一、六五	五一二
德島	二九七	五、四一九	五、七一六	三五二、六〇八	一、六三	七二
大阪	二、九一二	一〇、八八六	一三、七九八	八六三、四〇五	一、六〇	一、〇二三
廣島	一、三八八	九、九九一	一一、三七九	七四六、六五五	一、五二	六九八
千葉	九六四	八、三一五	九、二七九	六五六、七八二	一、四一	二八三
山梨	二七四	二、九四九	三、二二三	二七二、一四八	一、一八	一三四
茨城	五〇四	六、一〇九	六、六一三	六〇〇、四一三	一、一〇	五三
鹿兒島	一、〇一〇	五、二二一	六、二三一	五九四、九八五	一、〇五	三三四
和歌山	二六四	三、一九八	三、四六二	三五〇、〇六九	、九九	三七一
秋田	四六三	三、四三五	三、八九八	四〇三、九四六	、九六	一、二五七
鳥取	一六一	一、八七七	二、〇三八	二一七、五四一	、九四	三六九
埼玉	三五一	四、八九九	五、二五〇	六二七、五五六	、八四	三九四
岐阜	六二二	三、五三九	四、一六一	五〇二、六五八	、八三	三九七
沖繩	三一九	一、三〇八	一、六二七	二三九、五二七	、六八	九三
長野	四七六	三、九五〇	四、四二六	六七四、七一五	、六六	五一九
靜岡	四九六	三、五九九	四、〇九五	六四〇、八四八	、六四	七一
新潟	六六五	四、二八六	四、九五一	八九九、〇二一	、五五	八一八
栃木	二八四	一、八一九	二、一〇三	四五〇、一二六	、四七	一六三
臺灣	一、〇六九	三、二四四	四、三一三	一、四〇二、七七一	、三一	八、一一三
海外	七三二	二、一二二	二、八五四			二、六七六
合計	五四、四三二	四四五、八九四	五〇〇、三二六	二五、三一三、〇四〇	一、九八	三六、三四〇

備考　支部の配列は會員比例數の多きものより順次配列す
北海道及函館の兩支部會員は合算して揭載せり而して函館支部會員は特別會員四百九十二人通常會員千六百九人にして他は北海道支部會員數なり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

衛生

水泳の奬勵

ドクトル 川瀬元九郎

近年に至つて肋膜炎や肺結核に罹るものの數が增して來ました、實に困つたものであります、肋膜炎に罹つたものは餘程注意をして居ないと、肺病が一年位ゐの間に必然起つて來ます、故に肋膜病は肺病の御親類であると云ふて宜しからうと思ひます、この肺病の根治については日本ばかりでなく、世界中何れの國でも苦心して居るのでありますが、未だ是れと云ふ妙案もないやうであります。

病氣になつてからは致方がないものとすれば、病氣に罹らないやう前以て注意することが緊要であります、それは一般の衞生上の法則を堅く守つて行くことてありますが、これは小兒時代から遣つて行かなければ充分の効を奏することが出來ないかと思はれます、幼少の頃から運動をして身體の充分なる發達を期さなければなりませぬ、开處で追ひ〱夏期になりまして、多くの方々は避暑に行かれるてあらうが、この時期に際して注意したいことがあります、夫れは外でもありませんが、水泳は全身を働かせる運動でありますから、全身の發達を助け筋力を强くし、皮膚を丈夫にします、殊に肺臟を强壯にしまするもので、實に効力のあるものであります、故に水は危險であるが、看護人さへあれば其の危險は防ぐことが出來ますから、兒童には是非この水泳をすることを奬勵されんことを望みます、然しそれも度を過すと却つて害をなしますから、其の邊の注意は無論必要であります、要するに海邊を唯だぶら〱させる位ゐのことでは、避暑をしたとて何んの役にも立たず面白くありません。

それから水泳は小兒ばかりではなく、婦人方でもドシ〱お遣りになるが宜しくあります、水泳をいたしますと、自然精神を爽快にし、勇氣が出來て身體が强壯になりますから、出來る丈け練習なされば大いによろしい、斯しますと、水練が効能あるばかりでなく、空氣もよく、日光にも曝らされますから、これほど宜いことはないと思ひます。

避暑にさへ行けば身體の爲めになると思つて居たら大間違い、避暑に行て愚圖愚圖して居ては、市に居ると同じこと、身體が丈夫になりッこはありませぬ。

產前產後の注意

產婆 井上みや子

昔から胎敎と申して、子供は胎内に居る間から敎育する必要があると申すことてありますが、胎敎は如何に施して宜いかと云ふことは私の專門外で分りませぬが、胎内の子を壯健にすることに就て少しくお話し致さうと思ひます。

私の知つて居る御婦人て、四人まて子を孕まれましたが、一人も生きて生まれたのがありません、何故であるかと其の原因に就いて種々研究して見ますと、全く母が滋養物を採らぬことが重なる原因と知れました、母體が壯健て無くては其子の壯健は望まれません、故に私が種々なる注意を致して滋養物を用ゐることをお勸めしました、處が五人目には壯健なる子が安々と生まれました。

懷妊の注意は男子も分擔して其苦痛を別たねばなりません、着帶後は別房制度を嚴格に守ることを要し、夜間は業務以外のことに時間を費して妊婦に心配を掛けたりしてはなりません、其他平常と異つて妊婦の動作が不充分でありますから、是れに同情を表し、若しも自己の身體が斯くの如く苦痛であつた時は何うであらふかと云ふことを慮へて、氣に障るやうなことを云ふてはなりませぬ。

私の受持の妊婦て、主人が其妊婦の前て子供の大切にす可きことを論じた末、誤つて戯談に「私の妻などは何うでも宜しい、保險がつけてありますから」と申されました、處が神經過敏な妊婦のことてすから、忽ち是れに激昂されて、遂に流產された實例があります。

其他妊婦は汽車及び人力車等に依つて旅行することは禁物であります、近頃は官吏の方などは能く地方に轉任せらるゝについて、妊婦を引連れて旅行されますが、實に危險の極みてあります。また生まれた子に乳を與へることに、專ら注意を要します、私の實驗によりますと、產後脚氣の母が其乳を呑ました子は、四五歲位の時に必ず腦膜炎に罹る恐れがありますから、夏季は別して注意を要します。

兎に角出產と云ふことは婦人當人は勿論のこと一家にとりまして大切なとてありますから、產前產後とも注意の上にも注意を加へて用心をせねばなりませぬ。

衛生小說

御臺所

糸左近

奧樣「お前は、長く居慣れぬ故でもあらうが、我宅へ來て以來、心に物思でも有るか知ら、何だかブリ〱してる樣だが、若し不服でも有るなら包み隱さず、打明けて御言ひな、何事も相談に乘らうよ。」

下婢「………………………」

奧「此方から求めて言はせながら、腹を立てる樣なことは決して無いのみならず、旦那樣始め却て其の正直な所を御賞になりますよ。」

婢「不服なんぞとは勿體無う御座いますが、此方樣へ參ります以前居りました加藤樣の御邸は何時も、御病人の斷えた事が無くて、自然御家も陰氣勝になり、私までも何だか胃病の樣になりますから、可愛がつて下さるのを、無理に御暇を頂いたやうな譯で、それから………」

奧「それから何うしたの、遠慮は要らないからね」

婢「御氣に障りませうが此方樣は間都合が惡くて手數の掛りますと、それに何事も御變屈てゐらつしやる樣に思はれオホヽヽヽ、早いお話が、御飯をたく所と、御料理場所と、御流とが、夫々遠くて御飯を炊いてから、漬物を上げるにもそれを洗ふにも、彼方此方へと廻らにやなりませんし、爼を一々乾かしたり、戸棚へ火鉢を入れるなんてな御家は世間にあらうかと……………」

奧「モウ其丈なの」

婢「それから彼の加藤樣ては、奧樣が少しも臺所へお出になりませんから、何事も行り易う御座いますが、此方樣ではその申し難う御座いますけれど……」

奧「それて皆了りました、今御前に其譯を一々聽かして上げませう、物を炙燒する所は、不斷火氣があつて、其處に食物が有りますと、食物に濕みを帶び、忽ち腐敗して了ひます、丁度御辨當の副食物が色の變るやうなものです、少位の腐敗は分らぬやうだが何時もそれを食べてゐますと、長い月日の中には胃病や腸加太兒などになります」

婢「濕みが惡いなら、何ぜ爼や鼠不入を太陽樣に干したり、戸棚へ火鉢を入たり爲さりますやら」

奧「善い尋ね方です、凡て物が腐敗する譯は濕氣と溫みと相合うて更に黴菌と、言つては惡り難くからうが、平たく言へば目に見えぬ「むし」が出來るのです、虎列剌の黴菌でも肺病の菌でも皆天日に曝せば死ぬし、濕氣があれば益々殖えます。其故爼や蠅帳を時々乾かして濕氣を取らねばなりませぬ。」

婢「致しますと、御臺所は此方樣のやうに幾間にも仕切り、それて乾いてゐて凉しく、朝夕の天日がさし込み、幾日も雨が降り續けば火鉢を入れて乾かすやうにすれば宜しいので御座いますね。」

奧「能く道理が分るね、其の心持で働いて與れゝば、妾が臺所へ出る必要も無くなりませうよ」

婢「御序に御尋ね申しますが、拭巾を洗ひます時、入れと被仰る御藥は何といふ物て、又何の爲て御座いますやら。」

奧「あれは重曹といふ藥で、毒を洗ひ落します、一體拭巾が鼠色になつてるやうては、事そ拭かぬ方が增してす。」

婢「成程さうて御座います、これより心を改めて忠義を盡しますから、何卒今までの所を御勘辨下さりますやうに。」

斯う言つて臺所に下り

水て洗つて又湯て洗ひ
重曹拭巾て拭くわいな

不知不識歌つた後

婢「嗚呼加藤樣の奧樣は奧樣て無くて內儀さんて澤山、此家の奧樣は今日より御臺所と申さにやなるまいテ。」（終）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

鶴と熊と獅子と象

上野動物園主任　黑川義太郎

▲鶴の巢籠　昨年園内で一羽の雛を孵化したことがありましたが、本年も又同じ親が同じ場所に巢籠をしました、鶴と申すのは餘程行儀の宜いもので、子供の育つ間は決して卵を産みません、一年立つて始めて二個の卵を産みます、此二個の卵は一は雄一は雌と定つて居りまして、一番揃ふて產むのであります、只今孵化中のも二個でありますが、一個は失敗したやうであります。

▲天下晴れ　鶴は深山幽谷の間、人の蹤ることの出來ぬ喬木の枝に巢籠るが普通でありますが、動物園内の巢籠は萬人環視の裡、且つ群鳥雜居のうちに在つての巢籠でありますから、是れこそ天下晴れての巢籠てあります。

▲親子の情　燒野の雉子夜の鶴子を思ふ親の情は皆一ツと申しますが、巢籠つて居る間は夜の目も寐ないで雌雄共に怠りなく警戒し、夜中に人の足音なぞを聞きますと、高く聲を放つて警戒致して居ります、雌は熱心に卵を溫め、雄はまた寢食を忘れて其の周圍を警護して居ります、其の情合の溫かなることに於きましては、人間に於ても見ることの出來ぬ位ゐのものであります。

▲獨立の雛　昨年產んだ雛は旣に獨立して、人間で申せば一人前となりました、さて斯うなつた以上は親は何事も干渉致しません、飛び度い處に飛び、食ひたい時に食へと云ふ風て、別して新らたに巢籠つて後は、同居するを快しとせぬ風が見へましたので、別室に雛を入れました處が雛の方ては親を慕ふの情甚しく、五日間悲しい聲をあげて鳴き續け、絶食して居りましたが、幸に此頃は親を追慕する念を斷つたやうであります。

▲北極の熊　日本熊は性質が溫順て、一室に六疋位ゐ入れても、互に爭ふなど云ふこともなく、六疋とも兄弟の如く睦じくよく遊んで居りますが、北極熊は性質が猛くあります、園内の南方の一室に居る白毛の北極熊は雄であつて、久しく獨身生活を營むで居りますので、此の間私共が媒介役となつて獨逸から雌を買ひ入れ、隣の檻へ入れたのでありますが、最初の間は互ひに吠え合つて今に爭鬪でもせんかと云ふ勢でありましたが、追々に慣れて來たやうでありますから、日ならず、中間の柵を徹することが出來るであらうと思つて居るのであります。

▲二疋の獅子　雄の獅子が二疋居りますが一疋の方は性質が柔和て、私共が檻に近くと、身を擦寄せて毛を撫てゝ呉れと云ふ風に見へますから、時々毛を撫てゝやつたり爪の伸びたのを脫つてやつたりしますが、一方の獅子はなか〳〵獰猛て、容易に近くことが出來ません。

▲猛惡な象　象は最初買ひ入れる時に充分の調査をせず、甚だ猛惡な性質のものを買ひ受けた爲めに暹羅より象使を三ヶ年の契約て傭ひましたが、半ヶ年て逃げて歸つたほど人に慣れることの出來ない象なので、遺憾ながら觀覽者に充分の滿足を與へることが出來ません。

蟻の軍勢（下）

三島霜川

一體蟻といふ蟲は、團結力が強いだけに、全て軍隊式に働いてゐるかと思はれます。御覽なさい。彼等は滅多に、一匹でもッて歩いてゐません。少なくとも、十匹または百匹位、多くは千匹萬匹の蟻が隊を組むで働いてゐます。巢ても、その通りて、一匹の蟻の巢といふものはありません。つまり軍隊式て、大勢のものが集つて居るのであります。

けれども、日本ては餘り大きな、蟻の軍勢が無い、素敵と長く續いたところで、三町か五町、大概は、五六間位でございます。ところで、亞弗利加の大森林ては五七町續いた蟻の軍勢が、當前て。少し大きな軍勢になると十町廿町、または三里位に續いてゐます。三里と謂へば、人間の軍勢にしても、四列縱隊にして、ざッと二箇師團からの兵力てなければ續きません。ですから、蟻にすると、何の位の數だか、殆ど、見當の付がない位。

さて、この無數の蟻が、四五寸位の幅に正しく列を作ッて進みます、列を離れて少し大きな蟻が隊長と謂ッた風て、隊の形の亂れないやうに、眼を配ッてゐます。そして夜となく晝となく休みッこなく歩き廻ッてゐる。歩き廻ッてゐるうちに、お腹が減ッて來ると、直に戰鬪の準備をする、お腹が減ッて、戰の支度をするのは多分蟻ばかりでございませう。

何物に向ッて、戰の支度をするのかと謂ふと、何んでも管はない、地を這ッてる動物てさへあッたら、敵が大きからうが小さからうが、また強からうが弱からうが、そんなことに頓着しない、強ければ、強いだけ、大きければ大きいだけの手配をするのであります。

そこて、先づ茲に、虎だとか、獅子だとかいふ猛獸に出會したとすると、蟻の軍勢は、隊列を橫にする。つまり、眞ッ直に進んでゐたのが、橫向になッて進む、何んのことはない、包圍攻擊てございます、そして敵に向ッて一番近い一隊が攻擊を始めると、これが二里にも三里にも渡る大軍勢に知れ渡りて、一隊また一隊、すばしこく戰の場所へ進む、そして剛情に敵を攻擊する、若もこの軍勢の一隊が敵に取付いたら往生です、大概の猛獸は殺されて餌になッて了ふ。栗鼠や兎などは、眞ンの一と息てす。

ですから、猛獸の方でも、大層蟻の軍勢を怖れて、獅子ですらも、この敵ばかりには逃出すといふことてございます。獅子が蟻を怖れて逃げると謂ッては不思議てすけれども、事實だから仕方が無い。

獅子は、自分等の仲間が度々この蟻の軍勢に殺されて骨と皮ばかりになるものですから、それで逃げずにはゐられない。若また、逃損ッて、蟻の一隊に取付かれたとなッたら、獅子にしろ虎にしろ、象にしろ豹にしろ默ッてはゐない。それこそ勇を振ッて奮戰する。それて、始めのうちは、一萬や十萬の蟻は直に殺されて了ふ、けれども幾ら猛獸でも、二日も三日も奮戰してゐることが出來ない。だんだんと疲れて參ります。そして半日も戰ッてゐると、背でも足でも、手でも顔でも蟻て眞ッ黑になッて了ひます。此うなッては、流石の獅子も耐らない。蟻が、もう肉の中まで喰込むで了ふのですから、終には狂廻ッて死んで了ひます、ですから、昔、亞弗利加では、死刑にする大罪人を、この蟻の軍勢の進路に立たせて縛ッて置いたと謂ひます。

何んだか、嘘のやうな話てすけれども、實際のお話、尤も日本ても、この小さな例がある。成程亞弗利加のやうな大軍勢では無い、從ッて敵も、獅子とか虎とかいふ猛獸ではないけれども、蟻の小軍勢が、蟬または蜻蛉、蛙などの小動物を包圍攻擊して、これを殺して了ひ、そして死骸を城へ運んで行くてはありませんか。これは、夏中度々見掛けることてすから、蟻の大軍勢が猛獸を征服して餌にすることも、決して嘘とは謂はれません。何しろ集ッた力といふものは恐ろしいものでございます。

▲お乳を遣ッて頂戴

大阪　坂井龍子

私の妹で今年七ッになるのが、お隣の赤兒の泣くのを見て、お隣の赤兒は何うして泣くかと聞きますから、お乳が欲いからと敎へました、しますと二三日經ちまして、妹は自分の翫具の人形のお腹を押へてピイ〱と鳴きますと、母上に向つて、私の赤兒もお乳が欲いて泣くからお乳を遣つて頂戴。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

短文

題「初夏雜題」

▲茶摘　埼玉　森田竹子

女中四五人と共に畑に茶摘みに行く、暫時野邊に出でざりし間にいたう氣色の變りしよ、高き畑より見渡す限り青々と若葉の緑美しく、脚下の沼には小舟浮べて釣する翁二三見ゆ

花は千咲くなる實は一つ
早く無駄花散ればよい

彼方に起る細く優しい聲、側なる雜木林の中には頬白の負けじとやうに。

▲選者曰　相變らず輕妙なもの

▲榮ある人　京都　渡邊豐子

初夏の日光を浴びて燦然たる有功章の胸にきらめく貴婦人に助けられ、流るゝ汗を拭ひつゝ、危くも歩を進むる若者あり、此人こそ癈兵總代として、今し總裁宮殿下より恩賜金の御親授をかたじけなうする名譽の益荒雄なり、あゝ斯る一兵卒の身を以て、恐れ多くも殿下の御座近ふ御召しの榮を蒙る、いかなる宿世ぞ、さはれ國家の爲に其身を犧牲として、鐵石の如き堅き心もて頑強なる敵前に進み、奮鬪遂に歩行も自由ならぬ不具者となりし哀れなる人なればこそ、斯る光榮をも擔ふなれ、敬すべき人よ、と思へば一入同情に堪へず、暫し見送る程、いつしか涙に眼曇りて見えずなりぬ。

▲選者曰　寫生文はこの作者を以て嚆矢とす

▲醒めよ　福島　横川千賀子

花も鶯も行く春と共に去りて、梢は緑に垣根は卯の花白う、何處より夏は來にけん、杜鵑の聲稀に聞ゆなど、春にもまして興ある頃にもあれや、殊に夕暮れそよ吹く涼風に送られて、遠くに蛙の歌を聞く、氣も澄み渡る心地せらる、田舍ははや早苗植うる期の近づきぬらん、蓮華美しう咲き滿てる田の面に、賤の男、賤の女の業とる姿彼方此方に見へて、刈入る秋の樂み思やられぬ、さるにても疾く醒めよ、花に醉ひにし世の人、醒めて田に畑に鍬取る人の辛苦を思へ。

▲選者曰　是れが白河古關の今の風光とぞ

▲錦魚　大阪　富永才子

つれなしとかこちし風も夏くれば
　青葉のかげになつかしくして

など口ずさみ居り候をりから、例年の若人參り候て、錦魚めし玉へとそゝのかすまゝに、あれよこれよとえらび求めしもの、殊の外さはになり侍りたれば、巷に賣聲しげき此頃、さのみは珍らしうも候はねど、らんちう一つがひを奉り候、日長のをりから御歌の料ともなり侍らば、げに嬉しうこそ存じ候へ、先は使の女新參者ゆへ一筆とりてかくなむ、かしこ。

▲選者曰　やさしき筆の使ひ敬服の外なし

▲黒　群馬　伏島たき子

それ麥の徵發よ、軍馬の徵發よと、心安まる折もなく、搗て加へて、雨のみ降りつゞきたりし去年の此頃にひきかへて、今年は天候も順境なれば、此の分にては秋の實りも思ひやられて頼母しい、軍馬といへばあの時出した黒はどうしたらう、馬ながらもめざましう働いて、滿洲の土と化したてあらうか、それとも情ある人に養はれて、今は平和の月日を過して居るてあらうか、青草をたべて、むくむくと肥えたる今の鹿毛を見るにつけても、そゞろに悲しい思ひがする。

▲選者曰　漸次着想の新しくなりたるを欣ぶ

▲夕景色　福岡　松村蔦賀子

田舍住居の心安さ、仕立て直しの衣なれども、うすき秋の心地よきに、夕餉たく伏屋の煙り見やりつゝ、何地ともなくそゞろありけば、新緑滴たらんやうなる杜の畔り、清く流るゝ小川あり、岸には卯の花匂ひ水には蝦の勇ましくはねるなど、いとゞ心もすがすがしう、やがて夜の暮四邊をこめて、葉末の露とまがひし螢の高く飛び交ふさま、畫にも描けぬ眺望なり。

▲選者曰　細流聲あるが如し

▲微吹く風　山形　阿部さゐ子

袷の衣もひとへにかへて、身は輕やかになりぬれど降りみふらずみ定めなき今日の空模樣、氣のむすぼれ勝ちなるまゝ、田に面したる方の垣によりて、こゝかしこを眺むれば、早や田植の初まりて、老いも若きも共々に、男女の區別なく、皆同じ樣なるいでたちして、鄙歌の節面白く苗を植うる樣、そを運ぶ少女等の畔道を走り行くなんど、えもいはずおかし、さはれ其の辛苦の程も思ひやられて、心に秋の實りを祈れば、神の息吹かそよそよと、田面より涼しき風の吹き來りぬ。

▲選者曰　少しく調が古い

▲思ひ深し　兵庫　清原千代子

見はたす限り青葉山、大海原の涯のはなに朝日きらきらと映りかへして、通へる舟も見へ分かぬまで、さては滴たる樣なる庭の青葉若葉に立ちまじりて、池の水際に枝さしのべて、躑躅の燃え立つやうなる花の姿を水にうつせるなど、云ひ知れぬながめにこそ、大方は散り失せたる薔薇も過ぎにし春のかたみとてや、二ツ三ツ咲き殘れるなど、何れか夏のしるしならぬはなし、さても思ひ深き此頃かな。

▲選者曰　山と水とを共に見るの心地す

▲亡き母　京都　清水いま子

惜みし春もいつしか過ぎて、庭の木立は緑に滴るばかりなり、思ひ出せば母上の逝去り給ひてより、はや四年の星霜は夢の如くに過ぎ、今日はしも命日にあたれば、東山の畔に納めある廟に詣でんと、晝過ぎし頃より出て行く、やがて御墓に詣て、御佛に何かと供物して家路につきしは、日もはや西の山の端近く傾むきて、あたり靜けく、木立の風にゆらめく音のみして折から後方に聞ゆ郭公の聲一層あはれに聞へてなん。

郭公なく一聲に袖ぬれて
　かへさ淋しき夕くれの空

▲選者曰　恨み多き作者の姉

▲無我無心　岡山　寺松政子

ほッほッほたる、あッちの水ざーにがいぞ
　こッちの水ざー甘いぞ、ほッほッほたる

と優しい稚子の聲に、端居して終日の疲れ休めて居る我は思はず外へ誘ひ出されて、行くともなしに聲する方に足を運ばした、麥畑の中に長蛇の横はれる如きさゝ川、生ひ茂る眞菰の葉陰に三つ四つ二つ、恰も蛇の眼の光れる如く、青く凄く、見るから恐ろしげる螢の光りを、こゝろなき稚子は掬ひ取つてほゝゑむだ、アヽ世の中は無我無心なるこそ幸多けれ。

▲選者曰　長蛇と云ひ蛇の目と云ふコワイ事

金野やほゑ

▲詩境　東京　濱田直子

白雲其所近く落ちしがごとき垣根の卯の花くだし、朝露のなさけに笑み出づる朝顏、涼しき夕べの青葉かげに螢も飛び交ふ、偖ては初夏の新天地を洗ふて星光る宵、ついもれ讀く杜鵑の聲なんど、まこと夏の我が宿は絶好の詩境なりける。

▲選者曰　作者得意の趣味

▲夏の君　鳥取　近藤靜子

築山の主人松の君は欣然として立ち給へり、其側には緑葉に淡紅の杜鵑花いと品よく縫編られたる裳長く引きて、嬌態溢るゝばかりにおはしますは、こたび夏の家より嫁ぎ給へる新夫人なり、妹背の君は恍惚として安らけき池の面に紫白の色美しく咲き出でたる燕子花、河骨のゆかしう匂ふあたりに視線を注ぎ給へり、頼母しき御家庭の樣かな。

▲選者曰　夏の家より嫁ぎし花嫁の君羨し

懸賞　新體詩

二つの影

埼玉　森田竹子

賤が籬にいときよく
　卯の花匂ふ夕まぐれ
畑の歸りの女夫連れ
　睦じげにも語りつゝ
木の下道を辿り行く
「慣ぬ野業に嘸かしな
疲勞やしけむ此報ひ
簪やほしき帶や好き」
戯る脊子が言の葉に
「君と共にし在ならば
如何なる業か厭ふべき
百千の富も何かせん
萬のたから何かせん
變らぬ君が愛をこそ
わらはゝ望め永久に」
　面恥げにも妹が云ふ
餘に嬉しき言の葉に
　感謝の光眼にあふれ
幸とふる脊子が胸
　空には星の見へ初て
和き夕霞立ちならぶ
　二人の影を包みけり

▲選者曰　本欄は終に作者獨擅の舞臺となれり

姫百合

群馬　伏島たき子

蠶飼の疲れいかにぞや
　後の園のこのこのめ
試みてよと言の葉の
　花折り添て給ひたる
眞心あつき吾が友に
　咲初にける姫百合を
返禮と共に參らせん
　いざ鉢共に參らせん

▲選者曰　蠶以外のものも詩材にして欲しい

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

簡易生活著者　文學士　竹村修譯述
ワグネル原著

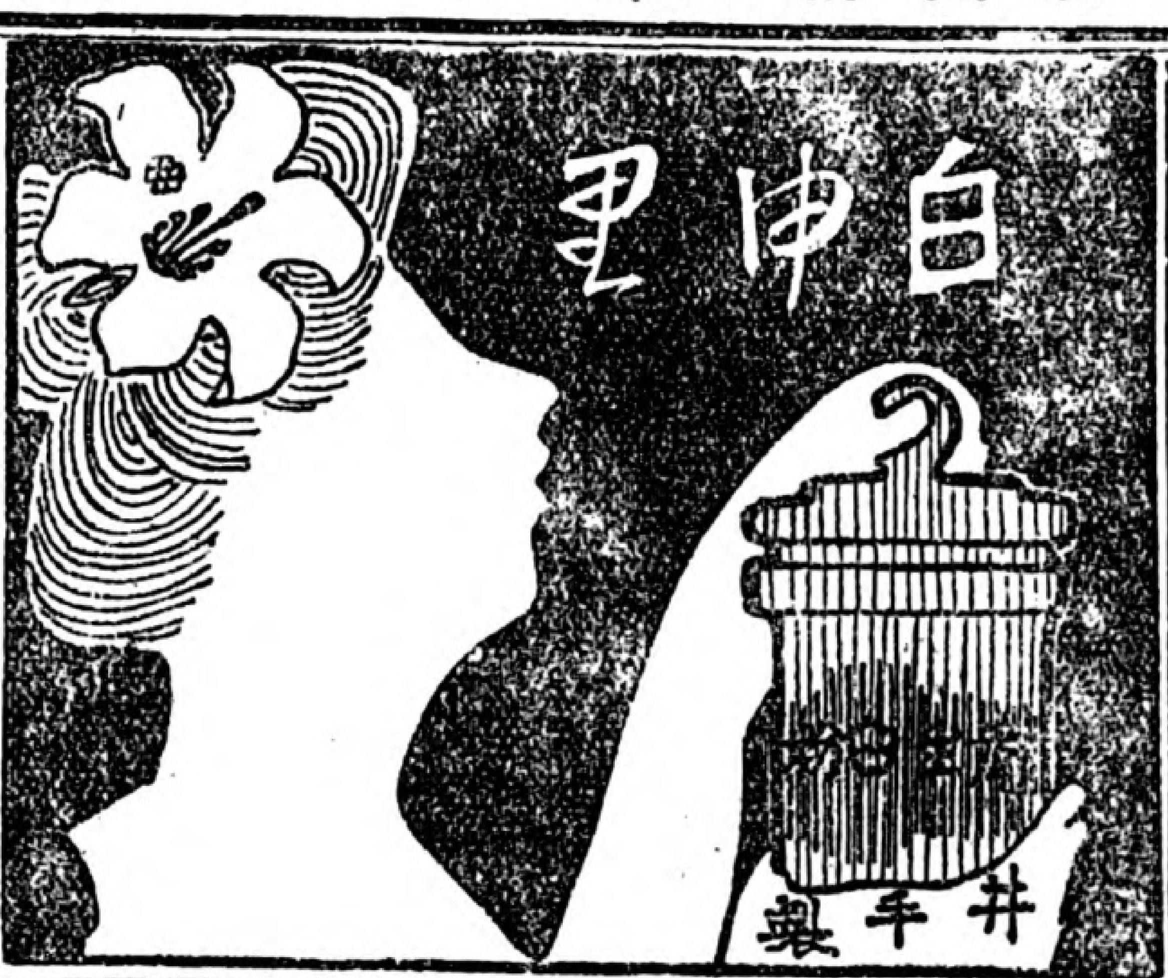
家庭講話

米國大統領ローズウエルトが一讀三嘆したる名著にして▲家庭の精神▲結婚▲父母▲家庭教育▲兄弟姉妹▲少年と老人▲老人の任務▲召使と家畜▲家庭の秩序▲婦人の仕事▲誕生日▲歎待▲朋友▲知己▲哀別離苦▲歸省▲悼める家庭の遺物と家の歴史▲家庭の宗教等二十二章に分ちて圓滿なる家庭の幸福を得るの道を說く

スマイルス原著　若月保治・竹村修共譯
勤儉論　全三冊各冊四拾錢郵稅四錢
大阪朝日新聞曰く　各章いづれも金科玉條にして吾人處世の爲めに有益なる教訓なり

圖入　**袖珍百科全書**　定價金壹圓貳拾錢郵稅拾錢

(版元)　東京本郷駒込西片町から橋下通　**內外出版協會**



白ゆり白粉は東京市內にて賣捌つゝある白粉舶來品共四十四種に付き內務省衛生試驗所の試驗に於て無鉛白粉として第一に表明せらる
白ゆり白粉に梨園の花たる芝翫、高麗藏、羽左衛門等の常に愛用せらるゝ品なり

[illegible]
[illegible]
日本橋葺屋町四
電話浪花一二七〇番

北米合衆國紐育市　**シンガー裁縫機械會社**
東京支店　東京銀座三丁目拾貳番地
大阪支店　大阪心齋橋筋二丁目五拾六番地
長崎支店　長崎大工町六番地
東京支店名古屋監督店　名古屋玉屋町九十六番

洋服、足袋、シャツ靴商等に非常の信用を博したるシンガーミシンは今や家庭の第一要具として全國の婦人に歡迎せられつゝあり而して我社は前記四店の外に全國の都市に六十有餘の出張所を有し又ミシン專門の裁縫を教授の爲に東京、大阪、橫濱等の各市にシンガーミシン裁縫女學院を設立し東京の如きは生徒數增加して今や三階造りの一大校舍を新築中なり、一たび我社の學校を參觀せらるゝの婦人は如何にシンガーミシンの家庭に必要なるかを知らるゝならむ、定價表目錄等御申込次第進呈す

ミシン專門裁縫夏期講習會
開期八月一日ヨリ一ケ月間
(規則書進呈、郵券封入御申込アレ)
東京麴町區有樂町三丁目壹番地　シンガーミシン裁縫女學校
大阪東區北濱二丁目六番地　シンガーミシン裁縫女學校

婦人洋服地並袴地帽子及小間物一式販賣仕候
其他婦人洋服裁縫
東京市麴町區麴町貳丁目
八木屋號　**大國市藏**
(電話番町七百四十一番)

(ラクダ印)

(麝香石鹼)

ラクダ印麝香石鹼は高貴なる**麝香**に愛すべき**スミレ**の香料を多量に含むが故に一度使用せば其香氣身体は元より手拭、タオル、ハンカチーフ及び浴後のゆかたに至る迄うつり香いたし**五日間**は馥郁としてかほりを失なはざる効力は舶來品にも未だ見ざる**一大特點**を有す

○定價大形廿錢小形拾錢　○熱心勉强なる和洋小間物賣藥化粧品店にて必ず販賣せり
近來類似品有「ラクダ印」と井上に御注意
東京本石町三丁目十八番地芳香藥總問屋　**井上太兵衛**

新もよう　ゆかたの地　玉善染
高尚優美新形染出し發賣
日本橋區芳町　美術浴衣地本舖　**玉川屋**
電話浪花 五八八

消化新藥

工學博士**高峰讓吉**氏に由て發見せられたる有名なる胃腸新藥タカヂアスターゼは粉末錠劑水劑の數種として各藥店に販賣せらる
摸造品數多あり必ずタカヂアスターゼ名稱及弊店名義に乞御注意
本劑に關する說明書は御申越次第贈呈す
東京市南茅場町二番地
三共商店藥品部

佛國パリー直輸入
ピンク白粉
芳香頗ル高評
輸入元　東京市日本橋區小傳馬上町　**倉田山海堂**

◎**夏季は壜詰酒の最優等なる品を撰むべし漫遊旅行者は衛生無害の酒を携帶せよ**

芳味醇良　**世界長**
壹升入　四合入　貳合入　壹合入
東京日本橋區照降町
高橋商店
電話浪花千五百六十一番
洋酒食料品食器類一式洋菓子ビスケット舶來香水石鹼其他雜貨勉强販賣市內迅速配達

はんかちーふ

地質(羽二重、キヤラコ、外色々)

商品概畧
和製舶來ハンカチーフ　島タオル紋織各種
和製舶來風呂敷　敷布、兵兒帶
タオル大小各種　エッポル涎掛
尚御印入御誂物等迅速精巧調進仕候

東京市日本橋區元濱町
高橋政右衛門
電話浪花九百十八番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

○うなゐ子の團扇のかれて我袖にすかる螢をいかにしてまし　兵庫　中村益子

○袖のうちに螢つゝみてかへる子の心やいかに嬉しかるらん　青森　田島正子

○嬉しさのあふれ／＼しおさな子のこゝろも空にとふ螢かな　靜岡　萩原さだ子

○おのかしゝえものをとりてとふ螢おふうなゐ子の樣そおかしき　山形　阿部さゐ子

○五月雨のうさもわすれて川の邊にいとおもしろく螢かりする　兵庫　下岡松枝子

○笹の葉ふ竿にむすひて河のへにほたるとる子や樂しかるらん　京都　渡邊米子

○たへかたきひるの暑さもわすられて螢かりする宵そたのしき　宮城　渡邊みち子

○はらからとほたる狩するたのしさに夜のふけゆくもいつかわすれて　靜岡　青木翔子

○保津川の清きなかれに棹さしてみなかみ遠く螢おふなり　京都　磯谷澪子

○いさ今日はとひ交ふ螢あつめつゝふみよむ窓のあかりにやせん　石川　新田暉子

○涼風に袖ふかせつゝ小山田にほたるかりする宵そたのしき　青森　佐藤楓子

○夕かけていさゝ小川のほたるかりひるのつかれもわすれはてつゝ　宮城　渡邊作子

○草深き野への小路を今宵また子等にましりて螢狩せん　東京　戸塚鐵子

○短夜に勢田の長橋いくかへりおひつまれきつ螢狩して　函館　神尾登女子

○友とちと涼しき風の通ふ野に螢狩する夜そたのしき　茨城　綿引馨子

○籠なから友におくらんこの夕へ螢狩せししるしはかりに　群馬　伏島たき子

○乙女子のこちこと招く甲斐もなくあなたの岸に行く螢かな　愛知　市橋幾子

○かなたにも團扇かさしてまつ人のありとはしらてとふ螢かな　大阪　宮永才子

○をとめ子の聲もましりて蘆の葉のそよくあたりに螢狩るらし　岡山　武田須磨子

○よみさしの文さへおきておさな子と今宵もゆきつほたるあつめに　東京　岡田春子

○さみたれの名殘すゝしき螢狩露ふむ野路に月もこほれて　北海道　四久子

○夏の夜のふくろもしらておもふとち宇治の川邊に螢かりせし　岡山　横田飛天子

○川風に身もすか／＼と螢かりうき世の外の心地こそすれ　佐賀　田村梅野子

○夕まくれ清きなかれに棹さしてみたるゝ螢とるそたのしき　島　富樫てる子

○暮るゝ野の草の葉かくれかけ見えてたもとすゝしき螢狩かな　岡山　貝原わか子

○白たへの衣の袖に風うけて小川の岸に螢とるなり　福岡　松村壽賀子

○荒川の清き流に舟うけてとひかふ螢とるそたのしき　埼玉　森田竹子

○露草の花はあまたにつみぬれとあさる螢の數そすくなき　東京　長鹽錠子

○をとめ子か渡りかれたる里川に影をのこしてとふ螢かな　東京　瓜生保子

中村益子筆蹟

○河のへの柳の糸のみゆはかり玉とみたれてとふ螢かな　靜岡　淸水はつ子

○なかれゆく水にすゝしき影みえて淸瀧川にとふほたるかな　京都　金澤收子

○おもふとち螢を追ひつおはれつゝ遊ふ川邊そたのしかりける　神戸　乾榮子

○言の葉の玉とつゝまん夏の夜の流にそひてひかるほたるを　山口　荒瀬千勢子

○をさな子の中にましりて遠近に螢かりして遊ふたのしさ　京都　渡邊豐子

○さつき暗こよひをまちて里川にいてやつとひて螢狩せん　東京　濱田直子

○影見えて水田の上をゆく螢まれ／＼團扇の風にたよりて　岡山　貝原壽惠子

○高く低くとふや螢をうなゐ子かおひつゝ遊ふ夕へたのしき　京都　難波巴久子

○夕すゝみ友をつとひて螢かりふけゆく夜半もしらてすきけり　茨城　福田喜代子

○夕月もかくれて暗き野へ遠くかへさもしらて螢追ひけり　函館　佐藤益子

○川岸にすゝみし居れは里の子か螢おふらん聲そにきはふ　神戸　宇野類子

○螢こひほたるこひとてをとめ子のよろこふ聲のおもしろきかな　埼玉　加藤美代子

○さつき暗あせみちたとり螢追ふをとめの心いかにたのしき　茨城　關志計子

○ともし火もなくて學ひしふることはほたる狩るまも子等よわするな　岡山　山本種子

○螢逐ひにこゝろうかれて草むらのかくれ沼にそすそぬらしける　鳥取　近藤靜子

○やれ窓にふみ學ひたるいにしへの人しのはるゝ螢狩かな　東京　五藤敏子

○もろともにかりし螢をつとにして家路をさしてかへる樂しさ　青森　鈴木安子

○螢よふ聲おちこちにきこゆなり夕月すゝしさと川のもと　愛知　平松いと子

○篠木もてはらへはもつれ又ほくれこゝろありけにとふ螢かな　宮崎　久保やま子

○夕されは螢おふとて川きしのあなたこなたに人聲のする　三重　諸月常子

○夕風にあかる螢のあとおひてしらぬ野へにと我出てにけり　函館　龍岡とし子

○追ひくれは水面にかけもそはりついつれほたるとうちまよふなり　石川　藤野忍子

○低くなかくとひゆく螢あひあそひひるのあつさもわすれつるかな　東京　小島幹子

○夏草の繁かなかをとふほたるみたりのおとめ跡追ふてゆく　靜岡　里見雄子

○名にしおふ宇治の川瀨の螢かり星にもまかふむれのともし火　兵庫　淸原千代子

○螢飛ふかけをもとめて井手の里たま川つゝみ夜もにきはふ　岡山　寺松政子

○短か夜のもゆるおもひを草むらのしけき螢のかけにうつして　東京　長井いれ子

○宇治川にみたれとひ交ふ螢火は天なる星の降ると見るまて　東京　山口理勢子

○くさむらにもゆる光のかけとめて道のしるへとたとるほたるを　東京　三宅ひさ子

天　貰ふ手に夏を忘るゝ氷かな　廣島　白井政子

地　これもまた御代の惠か夏氷　愛知　市橋幾子

人　風鈴の音も絶ゆ日や氷賣　東京　濱田直子

涼しさを人に賣りたる氷哉　青森　田島正子
氷屋に客引き入れるお雪かな　靜岡　萩原さだ子
氷賣る店け花見の茶屋なりき　群馬　伏島たき子
錦魚屋と仲よさゝうや氷賣　東京　黒川順子
賣聲も冷やつかせけり氷賣　三重　莊司種子
惠まれし氷送るや母のもと　廣島　小田重子
蝦夷より送り越たる氷かな　京都　淸水いま子
蓮の葉に氷包みて戾りけり　東京　川村誠子
萬人に涼しさ分けて氷うり　東京　鈴木芳枝子
氷店さかる木蔭や祇園祭　埼玉　森田竹子
夏の日や立ち去りかたき氷店　埼玉　加藤美代子
夏の日も待ては冬ある氷かな　神戸　宇野類子
呑も憂し呑まぬも辛し氷水　京都　磯谷澪子

▲投稿規定▼

一、原稿は總て階楷にて明瞭に認められたき事
一、短文、和歌、俳句は夫れ／＼別紙に認める事
一、和歌、俳句は必らず繪葉書に認められたき事
一、一封筒又は一葉書中へ連名にて原稿を同居させぬやう致したき事
一、原稿には必らず住所姓名を明記されたき事
一、締切期日以後に投稿さるゝ方尠からず、右は甚だ迷惑に存じ候まゝ期日を堅く守れたき事

第卅壹回作歌募集
題　納涼
選者　某公爵夫人
規定　繪葉書に認める事
優等の作歌は七月二十日發行本紙上にて披露すべし

第廿四回短文募集
題　十分間（最近十分間に見聞したる事を有の儘に寫生すべし）
規定　一行十八字詰十五行以下
優等の作は七月二十日發行の本紙上にて披露すべし

第十二回俳句募集
題　紹斐
選者　編輯局同人
規定　繪葉書に認める事
優等の句は七月二十日發行の本紙上にて披露すべし

第五回新體詩募集
題　隨意
選者　編輯局同人
規定　成るべく短きもの
優等の作は七月二十日發行の本紙上にて披露すべし

締切七月五日限り

金蘭簿　參の卷

北海道日高國浦河郡浦河町　西久子
長崎縣南高來郡神代村　本田梨須子
東京市下谷區徒士町三ノ三三　岡田春子
神戸市下山手通七丁目四田方　大谷百枝子
京都市下京區大和大路五條上ル四三　濱邊豐子
茨城縣東茨城郡竹原町　綿引馨子
仙臺市元寺小路百四十七　渡邊作子
福島縣西白河郡白河町　横川千賀子
岡山縣小田郡山田村　横田飛天子
佐賀縣東松浦郡濱崎村　田村梅能子
靜岡市鷹匠町一丁目　丹澤善子
三重縣桑名郡桑名町大字外堀　柄田豐子
東京市麴町區平河町二ノ二十　瓜生保子
山口縣佐波郡防府町　國佐春子
宮崎縣東臼杵郡門川村字加草　久保やま子
愛知縣渥美郡田原町　山内經子
埼玉縣北足立郡浦和町縣廳官舍　山崎匡子
福岡縣遠賀郡水卷村字志田　松村壽賀子
群馬縣新田郡藪塚本町　伏島たき子
石川縣鳳至郡宇出津町　藤野しのぶ子
千葉縣印旛郡阿蘇村　淸宮佐久子
函館區會所町五十五番地伊藤方　湯田錦子
岡山縣上房郡高梁町　谷とめ子
青森縣三戸郡三戸町　田島正子
東京市牛込區早稻田鶴卷町四一九　長鹽錠子
富山縣下新川郡泊町　草野梅子
山口縣吉敷郡佐山村　荒瀬千勢子
長崎市桶屋町二番地　田中靜子
京都市油小路七條下ル　渡邊よね子
東京市深川區扇橋町　北村雪子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

美術彫刻帶留

霞の帶も裝ふ花を織る春着の裝ひ扨は青葉若葉の夏ごろも無て叶はぬ帶留に仲秋の月より光りめでたき金銀銅朧銀彫刻は美術大家の意匠を凝し寶石類を嵌入し紐は鹽瀬の縫取り金襴縞繻珍さまぐ\候へば富士雪の山々の御用命奉願候

○金製金具附價
十二圓十五圓
廿圓六十圓迄

○銀赤銅朧銀等
之金具附價
三圓五圓以上
八圓十圓位迄

東京市京橋區尾張町
白牡丹本店
松田幸治郎
特約電話新橋五五一番

天下一品

萬

最上醬油

釀造元
千葉縣野田町
茂木佐平治

賣捌所は各地とも有名なる酒醬油店に有之候

クラブ洗粉

此のクラブ洗粉もクリモラとミルク及び卵と舶來石鹸の主要なる原料のポーダーを以て謹製せられたる

帝國化粧品倶樂部

帝國化粧品倶樂部製品
總エーゼント
中山太陽堂
(大阪支店・神戸本店)
輸出入雜貨化粧品卸商

東京販賣店
三越吳服店
日本橋區駿河町

全國到る處の洋品及化粧品店にて販賣す

めりんす友禪

おしやれもよう
新がら柄で
東京人形町通り
赤のまん
おすゞや

FORMALIN SOAP

ホルマリン石鹸

◎殺菌防腐皮膚病一切によろし
◎養蠶家手洗消毒に最もよろし

消毒專用
化粧用
洗濯用

本舖 藥種問屋 **圓城商廛**
東京市日本橋區本町三丁目七番地

電話本局一四四三番

特別大販賣
東京本銀町三ノ十三
仲德商店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

花王石鹸

品質善良 衛生ト經濟ニ適ス

米國聖路易萬國大博覽會名譽銀牌受領

本舗 東京 長瀬富郎

關西代理店大阪大﨑組商會

帝都唯一受賞袴

小町印 學生袴

卸部 日本橋區彌生町 永井本店 電話浪花一八四一番

小賣部 神田南神保町 永井支店

大好評

ケーバー香水

賣捌所は到所和洋小間物唐物賣藥化粧品店にあり

小瓶 貳拾五錢

大瓶 壹圓

直輸入元 日本橋區橋町二丁目 竹間商店

春夏用ショール

フランネルセル地 見本呈ス

旅行用毛布チリヨケ外套車用膝掛種々其他

洋織物、裁縫物 ケット、敷物類 何なりと御座候

ツカタヤ

東京湯島切通下 電下谷一三一四

最上醬油

キハク印

於聖路易博覽會 名譽大賞牌受領

釀造元 千葉縣野田町 茂木七郎右衛門 電信略號(キハク)又(ハク)

キハク印醬油の味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判ですどーか其あぢのよくてそして經濟であると云ふことを御ためし願ます

東京支店 日本橋區小網町三丁目 中野長兵衛 電話浪花五七七番

諸官省御用

蚊帳・夏ざぶとん 夜具蒲團

街鐵も外堀線も小川町東明館の前下車を乞ふ

東京市神田區表神保町 矢田商店 電話本局二千十八番

市内無賃配達

●綿質保險附●正札引なし●縫目なし蚊帳有り●階上陳列場出來縱覽御隨意

定價 十五錢 三十錢 五十錢

特製 五十錢、一圓、一圓四十錢

東京室町資生堂

新國語漢文界之二大寶典刊

文學士 內海弘藏著

讀書作文辭典

壹萬部限特價金壹圓廿錢

本書は主として世の學生諸君が讀書と作文とに資せむが爲めに著されたる特殊の辭書にして實用的たらむことを期するとともに又よく其根本的たらむことをつとめられたりすなはち其語彙は主としてこれを現時の學校にて讀まれつゝある讀本の上より拾ひ來り而してこれをその意義の上よりその意趣の上より丁寧に適切に解釋せられたり難語熟語成語故事有職に關する語より地名人名書名格言俚諺術語の類に至るまであまねく皆こゝに網羅せらる殊に本書がその特色として誇るべきは一語の下にあまねくその同意語反意語類語をあはせのせて以て學生諸子に其比較攻究の便を與へたるにあり稿を起してよりこゝに四年有半著者の苦心以て見るべきなり本書一度出て、庶幾くは學生諸子をして國語智識修得の實を完うせしむることを得む

兩書内容見本 御入用向は御一報次第送呈

上製美本菊判全壹冊舶來紙刷語數約貳萬有餘紙數約千貳百頁定價壹圓半 小包料金拾五錢 滿數後斷然復價

文學博士 三島中州監修 池田蘆洲輯著

故事熟語辭典

壹萬部限特價金壹圓廿錢

本書は一 普通の故事熟語の外に官職制度文體詩體書體書法詩句俚諺佛語俗語字類字等を揭げ材料は極めて多方面に涉り 二 每項意義出處の二欄を置きて之を說明し更に考異使用辨疑探原轉用誤用餘論の各欄ありて之を詳說せり 三 經子百家の書凡五百餘種の解題と其の參考書とを載せて讀書者の燈明臺となる 四 文字を以て論述し難き點に圖畫を揭げ百聞は一見に若かざるの感あらしむ 五 讀解釋は平易を旨とし何人にも一讀の下に瞭然たることを得せしむ 六 音索引字畫索引四史諸子の三種を附したれば如何なる方面よりも容易に引き出すことを得 七 如上の外特色極めて多し讀書作文に志せる士は一本を座右に置きて應急搜索の用に供せられよ

上製美本四六判全一冊舶來紙刷語數約一万有餘紙數約一千二百頁定價一圓五十錢 小包料金十五錢 滿數後斷然復價

文學士 坂本健一著 增訂 外國地名人名辭典 上製定價金壹圓廿錢 全一冊小包料金十錢

文學士 朝永三十郎著 增訂 哲學辭典 上製定價金二圓 全一冊小包料金十五錢

文學士 田邊慶彌著 法律經濟辭典 上製定價金一圓 全一冊小包料十錢

即日發送 製本既成

發兌元 寶文館 東京市日本橋區本石町三丁目 大阪市東區備後町四丁目

賣捌 各地書林

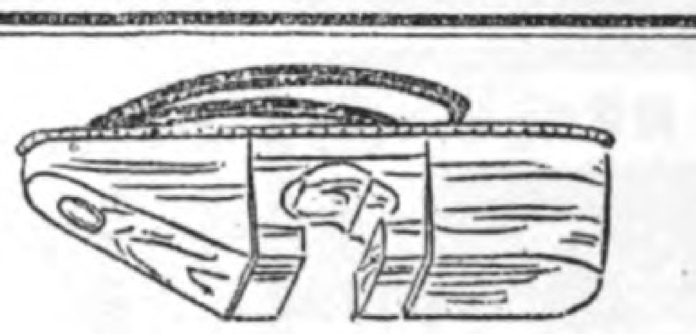
めをはくし ハミガキ

商標 登錄

羽おり紐

定價表ハ御申越次第直ニ呈送仕候

組紐舖



実用新案特許 **戰捷紀念凱旋下駄** 第九三三二號

凱旋下駄は曠古の大戰に絕大の勝利を得たる陸海軍凱旋の時に新案を凝して造りたり。

凱旋下駄は薪木用の桐の癈物を利用して普通の臺と少しも變らず加ふるに體裁よし。

凱旋下駄は德用にして且價も頗る安直なる故富國の基ともなるなり。

凱旋下駄は表附にて壹足十七錢より八十錢迄なれば中元御進物には至極適當の品なり

凱旋下駄は溫泉場、運動步行用、園遊會用等には取分適當なり。

凱旋下駄は步むに從ひ足の屈伸自在なれば遠路も疲勞せず實に强兵の基となり眞に凱旋下駄の名に負かざる無類の履物なり。

凱旋下駄は召す御方は常に戰捷の名譽を紀念するに同じ。

◉御注文は總て前金御送附次第發送可仕且つ見本品御入用の節は御申越次第即時御送附可申上候

製造發賣元　東京日本橋區本材木町一ノ十四

下駄類 鼻緒問屋 **稻延商店**

電話本局三百五十七番

日本第一の大勸業場

(本場の特色)

◎あらゆる物品を最も格安の正札附にて陳列販賣し御買上品は市内無賃で配達致します

◎御進物用物品切手を發賣して御望の品と引換ます

東京新橋角　電話新橋 一六五三 二三六二　**帝國博品館**

空前の大好評 忽ち賣切 再版成る

婦人世界

六月三日發行 第六號　拾五錢 郵稅壹錢五厘 六冊郵稅共九拾錢 切手一割增

口繪 ◎ナポレオンの家庭◎名流最近の新婚寫眞其他 ◎愛國婦人會の光景◎彩色石版及繪手本…

婦人の日常生活法(村井弦齋)

▲容色は如何に整ふべきか… ▲髮は如何に梳るべきか… ▲髮の油は何を用ふべきか… ▲櫛は如何に用ふべきか… ▲髮は如何に洗ふべきか… ▲フケは如何に取るべきか… ▲白粉は如何に用ふべきか… ▲白粉は何を用ふべきか… ▲顏は如何に剃るべきか… ▲婦人の美は如何に保つか… ▲心は如何に洗ふべきか… ▲朝飯前如何に過すべきか… ▲朝飯如何に支度すべきか… ▲朝飯には何が宜しきか… ▲果物は如何に用ふべきか… ▲皮膚の色を白くする食物… ▲朝の飮料は何が宜しきか… ▲牛乳は如何に飮むべきか…

右は村井弦齋氏が全國婦人の爲心血を灑て起草されたる大文字毎號連載

◎娘の結婚に就て母親の心得◎子宮内膜炎の話 伊庭學士 ◎田尻博士の家庭◎嫁入道具 ◎弦齋夫人の苺料理談 ◎寡婦の鑑 小川房子刀自… ◎婦人と指輪◎襁褓乾燥器 ◎小兒の病を知る法 加藤照麿 ◎蚊と衞生◎家庭菓子製法

東京京橋南紺屋町十一 **實業之日本社**　賣捌 各地書店

● 色白く艶をだす

松澤ボーサン石鹸　(大形一個廿錢 小形一個十錢)

●近頃にせ物多し御買求の節は商標及松澤名義に御注意

●當市内は勿論到る所賣藥小間物化粧品店にて販賣す

東京本石町四丁目 芳香藥種問屋 ムスク香水本舖 **松澤常吉**

夏半ゑり帶揚類 景品進呈

嶄新別染 **浴衣地** 中形小紋大柄絞り 縮緬明石紅梅島縮

○染形片側帶○單帶○染縫柄丸帶○下〆 ○絞り兵兒帶○長襦袢同袖○夏ショール ○裾模樣け出し地○博多伊達卷○帶止め ゑり治形○す丶め形○紀念形 髷形手柄

本店 新橋竹川町十二 電話新二〇二七 **ゑり治**

支店 神田表神保町壹 電話本局九五二 **ゑり治**

出店 新橋際 博品館内階下 ゑり治

◉**會員大募集**――目下入會の最好機なり 四月廿四日第一號發行

▲事情があつて高等女學校に入る事の出來ぬ人の爲めに『女學講義錄』を發行し僅に二ケ年間に高等女學校程度の教育を完全に正則に授けます

▲世間の講義錄は乾燥無味で面白味がありません、本會講義錄は此點に注意し、諸學科の講義何れも面白く極めて分り易いようにし、且つ有趣有益なる數十頁の雜錄の外に、美くしい家庭小說を毎號附錄とします

▲本會の講師は皆な斯道專門の大家で且つ教育に充分經驗のある方のみです、講義は只親切と云ふ事を主として丁寧懇篤に說いてありますから本會々員は親しく講師の膝下に在りて講義を聞かれると同じ事です

▲本會講義錄は右に述べた通り最も完全したものでありますが會費は極めて少額で都合一ケ月の遊學費で優に全期を終はる事ができます

新學期開始

大日本淑女學會　高等女學校程度講義錄發行

批評一班

▲中央新聞評 講述何れも平易にして親切を極めたれば初學の講者に最も可也

▲每日新聞評 米國の通信教授法を參酌せるもの文字平易說明懇篤を盡くせり

▲二六新聞評 高等女學校の全課程を講了すべく各講述者の態度頗る着實なり

▲日々新聞評 講義はすべて平易と親切とを勉めて毫も難解の憂なきに似たり

▲都新聞評 講義平明用意親切なれば數多き女學雜誌中一範域を拓き得可し

▲報知新聞評 講義錄多しと雖も實益と趣味と併せ有する事斯くの如きは稀也

上揭の批評を御覽にならば本會講義錄の眞價がお分りになりませう

▲本會規則書▼ 端書にて申込あれば直に郵送す可し

◉東京神田南甲賀町 **大日本淑女學會** 電話本局三千四番

六月一日より

中形浴衣地新柄陳列會

右は豫て懸賞を以て募集致候中形圖案に依り新たに染上げ候浴衣地の陳列を兼ね盛大に開會仕候間御誘ひ合はされ御來觀被成下候樣偏に奉願上候也

東京日本橋區駿河町

三越吳服店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京市麴町區錢瓶町（常盤橋内）
日本興業銀行
電話本局（特）
三、三〇〇番
四一番
三七番
一〇二番

一定期預金　年五分
一當座預金　日歩七厘
一特別當座預金　日歩一錢

東京市日本橋區通一丁目
合名會社 **森村銀行**
電話（特）本局六七三番

定期預金　六ヶ月以上　年五分五厘
當座預金　百圓に付日歩　八厘
特別當座預金　同日歩　壹錢壹厘

高等簞笥
長持類一式
蟲害豫防實施
數代の老舖
正札附販賣
簞笥目錄進呈

東京市日本橋區小傳馬町壹丁目
長持屋
長谷川簞笥店
電話浪花一千四百三十五番

最新流行
美術蒔繪櫛
笄
諸小間物品
束髮用品
和洋化粧品
香水石鹼
東京日本橋區通油町
よし

浪花一四四六

胃病良藥
太田胃散

スコット乳薬
小兒ノ發育期ニ用ユレバ其ノ效驗著ルシキハ最モ證明スル所ナリ（小兒ノ發育期ニ用ユレバ其效驗ノ著ルシキモノアリ證明スル所ナリ）
説明書ハ横濱郵便局私書函第五十八号
スコツト乳薬部へ御申込アレバ無代價ニテ進呈ス
代理店横濱市山下町廿八番館
米國貿易商會

金銀時計
宝石貴金属
美術品
東京市日本橋區通三丁目
大西時計店
電話本局一六八六番

石鹸
ウヅラ
東京 山崎五郎 發賣元

袴乃親玉

東京日本橋區長谷川町
卸部 美濃磯本店
電話浪花二八五九番

小賣部
本郷區本郷五丁目 美濃磯本郷支店
淺草區諏訪町 美濃磯淺草支店
電話下谷一四一五番
日本橋區佐内町 美濃磯佐内町支店
神田區小川町 美濃磯神田支店
深川高ばし際 美濃磯支店
芝區新櫻田町 小田商店
牛込區神樂町一丁目 伊澤商店
四谷區傳馬町一丁目 伊澤支店

產婆
本郷團子坂 井上みや

歐米直輸入
貴婦人用
●クレープシヤツ
●婦人小兒用帽子
●上衣キヤンバース
●洋傘手袋沓下類
●敷布用タヲル切地
●精巧舶來人形各種
●洋花リボンレース
●旅行用化粧道具
●外西洋小間物一式
東京市京橋區銀座三丁目
伊勢輿 **三枝小賣店**
電話新橋三九二七番

醫院案内

產科婦人科專門
診察每日午前　入院隨時
淺草區左衛門河岸
電下谷一〇二八番
岩田病院

內科小兒科特に**吸呼器病**
麴町はやぶさ町二十八番地
電話番町八二二番
ドクトル **川瀬元九郎**

產科婦人科
東京日本橋區濱町三丁目七番地
楠田病院

小兒病診療
宅診午前　往診午後
淺草區福井町貳番地
醫學士 **內田愼太郎**
電話下谷七一八番

院長 醫學士 **鳥山南壽次郎**
鳥山內科院
午前診察　午後往診
京橋區銘屋町十一番地
電話新橋千七百四十六番

產科婦人科專門
ドクトル **樋口繁次**
師朝後於本院診療に從事す
二各科診察從前の通
芝愛宕町
東京病院
新二六四
同二六二〇

神田區西今川町三番地（電話本局三〇一九）
內科病特に腦脊髓神經疾患
峰內科醫院
院長 ドクトルメヂチーネ **峰秀世**

東京神田錦町參丁目電本七一五
診察午前午後
入院隨時
山口眼科病院
院長 醫學士 山口秀高

東京神田區美土代町三丁目十七番地
內科一般
午前宅診　午後往診
板垣亨
電話本局貳千九百七十番

院長 醫學博士 榊順次郎
副院長 醫學士 久保德太郎
婦人科產科榊病院
東京麴町三番町卅三（電話番町三九五）
每日午前診察
每日夕刻診察

產科婦人科
醫學士 **伊庭秀榮**
京橋區南鍋町一の一角
朝 八時より正午
夕 五時より八時

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

洗用ワツセル

◉此ワツセルは油じみ油あか如何なる汚れでも揉ずに必ず落る石鹼曹達の如く布を損傷せず染色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品でありますか

◉用法は湯一升に二匁(小杯へ半分餘)の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し揉ずに濯き後湯又は水にて洗へば自然に脱ますシヤツの如きは(拾貳号)入一本にて貳百枚は必ず洗へます御婦人の髪は一匁五分を一升餘の湯に溶解してかもじを洗う用に揉ずに洗べし左れば玉子で洗た樣になります又食器臺所道具を拭き掃除にも有効です

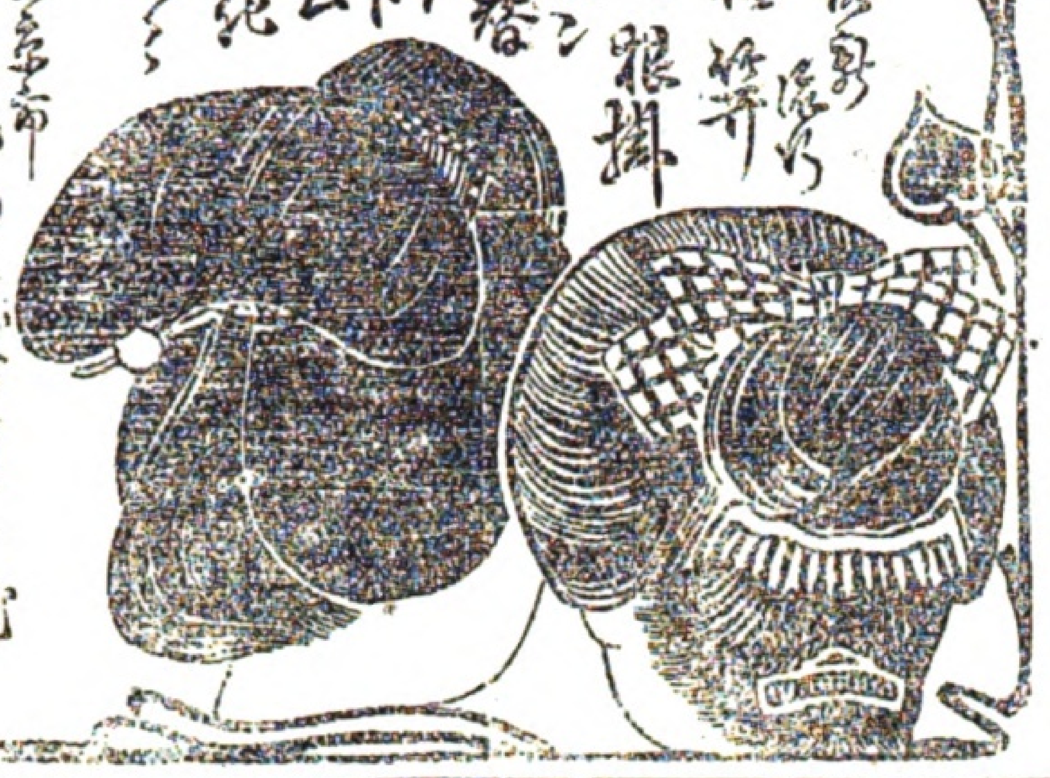
定價　拾貳号入 金拾五錢　六号入 金八錢　袋入二錢

芳香御肌洗粉ワツセル

◉此肌洗粉ワツセルは當時歐米各國貴族社會に流行する芳香類を加味し製造せしものなれば朝夕御使用の方は香氣馥郁として肌持晴々す又おしろいしたを用ひずして御化粧が出來ると妙なり

定價　最上 金七拾五錢 金貳拾錢　普通 五拾錢 六錢 參拾錢 三錢 拾七錢

東京市京橋區三十間堀三丁目 電話新橋一七一二
英國製ワツセル日本一手販賣元
御肌洗ひこ芳香ワツセル製造元
三友商會



煉香油 パール

貴婦人用　紳士用

歐米化粧品輸入商
東京濱町一 電話浪一一〇一
平尾分店
香油ゴールドオイル發賣元

日本家庭辭書

西山㧾治先生編(家庭の寶典)

目錄見本御入用ノ方ハ往復端書ニテ御申越アレ無代進呈ス

四六判形總クロース
頗ル美本全壹冊
舶來上等紙摺
紙數凡八百餘頁
定價金壹圓三十錢
内地小包料十五錢

▲製本出來期限六月下旬▲
▲壹萬部限り特價九拾錢(期限内ト雖モ滿數ノ時ハ不得止正價ニ復スルコトアルベシ)(小包料十五錢)
▲申込期限七月二十日

發兌元　東京京橋區南大工町一番地　弘道館

ムスク香水

(大瓶壹圓●中瓶六拾五錢●小瓶二十五錢)

○本品は芳香の永く保つ點に於て頗る高評なり

東京日本橋區本石町四丁目
ホーサン石鹼本舗
本舗　松澤常吉
(電話本局百四拾五番)

斬新材料
舶來海絹 シホン
ホワイト リーブス
郵券五錢御送付相成候はゞ見本進呈可仕候

各女學校御用
附屬品幷に造花器械類一式

東京市日本橋區横山町一丁目十六番地
天野卯兵衛　電話(長)浪花一六四三番

營業目錄御入用なれば愛國婦人を見てと御書添へ御申越被下度候

戰勝紀念ピン

銀金の地金に七寶の彩色うるはしく圖案は孰れも陸海軍を象れる優美なる意匠に成れるもの世の紳士淑女たちはその各胸間に飾りて此の千載一遇の皇軍大勝利の紀念としたまへかし。

定價(純銀製一個 金三十五錢以上 餘は御好み次第迅速調製可仕候)

手釦は孰れも陸海軍を象れる優美なる意匠を凝しあれば世の紳士たちは洋服に飾りて皇軍大勝利の紀念としたまへかし。

此圖案の外陸海軍連勝にちなめる斬新の意匠を凝らしたる提物澤山出來致居候

宮内省御用達　玉寶堂
東京市下谷區池の端仲町
電話下谷(特九六五番 一二四四番)

英雄ナポレオンの母と家庭

法學士滿田寛一著(賢母良妻の典型)
法學博士和田垣謙三序

洋裝頗美製本　金五十錢　郵稅八錢

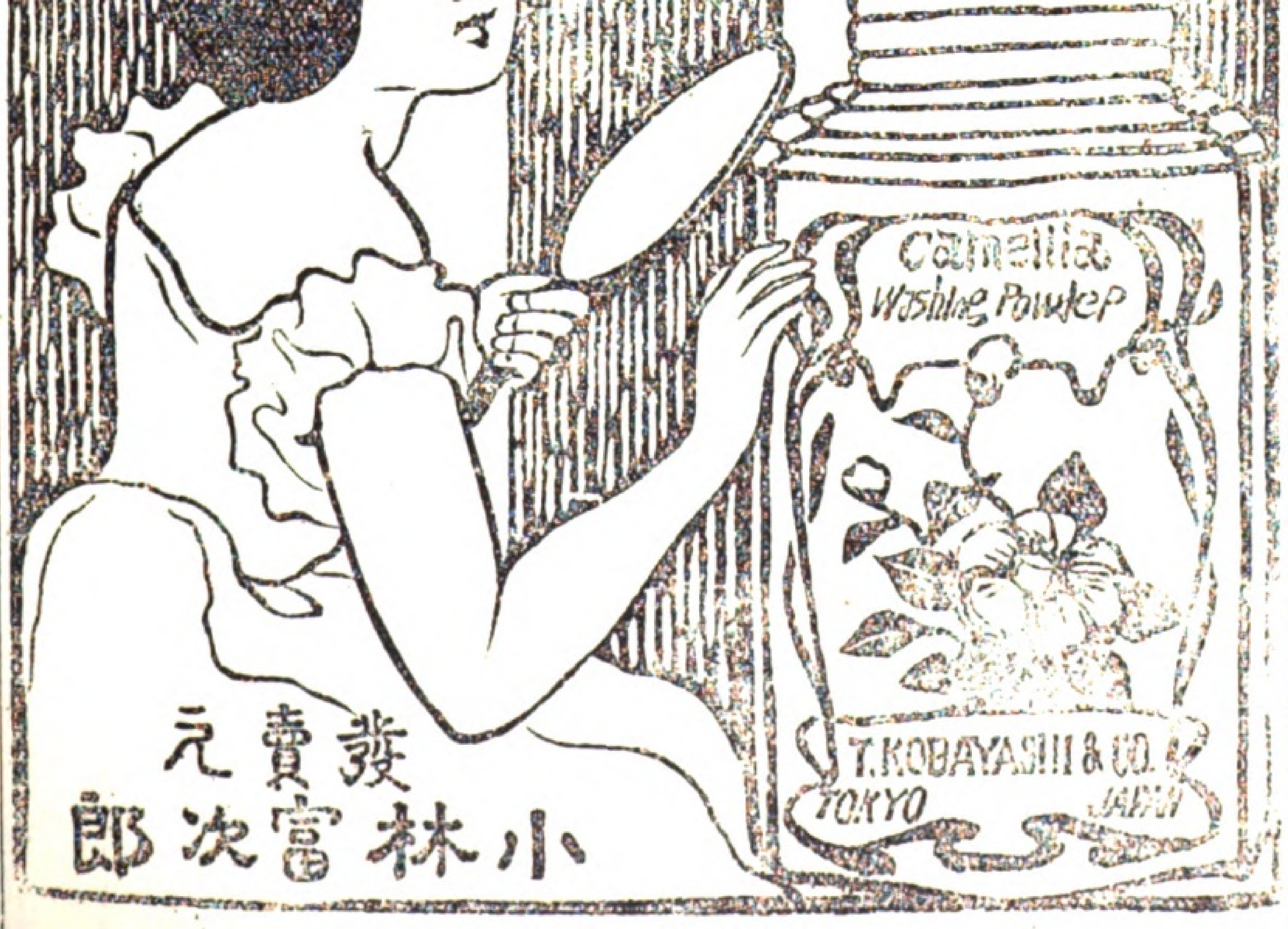
東京京橋桶町廿一　廣文堂
神田表神保町一　東京堂
日本橋區大倉
大阪市備後町四丁目吉岡書店

歐亞の天地を屈服せしめし絶世の英雄ナポレオンを產み彼を育て彼を導きたるは是れ女傑レーテイチアなりとす彼女は夫及姑に事へて貞操良順能く其赤貧洗ふが如き内にありてナポレオンを世界の偉傑ならしめたるは其家庭に於ける敎訓の多く力を致せるもの也今や我武邦士道家庭敎育愈奮ひ賢母良妻主義亦盛ん也伏て世の諸親愛讀を祈る

カメリヤ洗粉

カメリヤは時代の要求により生れたる最新最良の洗粉なり香氣爽快にして色を白くし皮膚を艶麗ならしむ

定價
旅入 十二錢
袋入 五錢
小袋 三錢



發賣元　小林富次郎

愛國婦人廣告取扱
京橋區數寄屋橋外　弘報堂
神田三河町　博報堂
京橋區南紺屋町　一星社
京橋區南鍋町　秀逸堂
日本橋區上槇町　萬年社
日本橋區箱崎町　春風舍
京橋區宗十郎町　正路喜社
京橋區日吉町　帝國通信社
同區彌左衛門町　京華社支店
同區南鍋町　廣告社

明治三十九年六月廿日發行(毎月五日二十日二回)
發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　手島益雄
發行所　東京麹町　愛國婦人發行所
印刷所　秀英舍

愛國婦人第百六號附錄

明治三十九年六月廿日發行（每月二回五日廿日）
明治三十五年三月二十七日（第三種郵便物認可）

愛國婦人會京都支部第五回總會光景

發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　手島益雄　發行所　愛國婦人會內愛國婦人發行所
印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN